工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木丁事共通編・十丁】 施丁途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		+共通編:土	工】施工途中での出来形部分が規格値を満たして	いるか確認する。			単位:mm
	法確認 条 枝	工種	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 河 川	2	掘削工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は掘削部	基 準 高 ▽	±50 -200		
海岸			の両端で測定。	法	法長-4%		
· 砂防土工				- LEJIII	/AR 470		
	3	盛土工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m	基準高▽	-50		
			(又は50m)以下のものは1施工箇 所につき2箇所。基準高は各法肩 で測定。	法 L<5m 長	-100		
			ISITIS!	L L≧5m	法長−2%		
				幅 w1, w2	-100		
	4	(補強土	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇	基準高▽	-50		
		メ)壁工法) (多数アン	所につき2箇所。	厚 さ t	-50		
		カー式補強土 工法)(ジオテ キスタイルを		控え長さ	設計値以上		
		用いた補強 土工法)					
	5		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇	厚 さ t	% -30		
			所につき2箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。				
	6	堤防天端工	幅は、施工延長40m(測点間隔25	- 1/15	0.5		
			mの場合は50m)につき1箇所、延 長40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。厚さは、施	厚 t<15cm さ t≥15cm	-25 -50		
			工延長200mにつき1箇所、200m 以下は2箇所、中央で測定。	· La 13cm	-100		
				Ιμ **			
		1					

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

【土木工事共通編:土工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確認 条 枝	工種	測定基準	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 道	2	掘削工	施工延長40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ		基準高▽	±50		
路 土 工			き2箇所。基準高は、道路中心線及 び端部で測定。	W	法 L<5m 長	-200		
				L V V L	L L≧5m	法長-4%		
					幅 w	-100		
	3 . 4	路体盛土工 路床盛土工	施工延長40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ	, W_1 ,	基準高▽	±50		
	4		び端部で測定。		法 L<5m 長	-100		
					L L	L L≧5m	法長−2%	
				IBIBUBI	幅 w1, w2	-100		
	5	法面整形工 (盛土部)	施工延長40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2箇所。法の中央で測定。	1	厚 さ t	 ≈−30		
			※土羽打ちのある場合に適用。	t				
				7,4174				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

【土木工事共通編:無筋・鉄筋コンクリート】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	確認 枝番	工種	測定基準	・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
	4	組立て	d=D/(n-1)		平均間隔d	$\pm\phi$		
工			D:n本間の延長 n:10本程度とする φ:鉄筋径		かぶり t	±∮かつ最小 かぶり以上		
			工事の規模に応じて、1リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所 以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書(構造性能照査 編9.2)参照 注1)参照 注1)参照 注1)適用する。 注2)橋梁コンクリート床版析(PC橋 含む)の鉄筋については、第3編3 ー4ー12床版・横組工を適用する。 注3)新設のコンクリート構造物(橋 梁上・下部エ)および重要構造物である内空断面積25m2以上のプレキャスト 製品は全ての工種において対象のの鉄筋の配筋状況及びかぶりスカルバート(工場製作のプレキャスト 製品は全ての工種において対象がいついては、「非破壊に対してがあるりについては、「非破壊に対してがあるりについては、「非破壊に対してがあるりについては、「非破壊に対してがあるりについては、「非破壊に対してがある」との。	D				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	去確認 条 杖		測定基準	≛∙測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 共	4	矢板工	基準高は施工延長40m(測点間 隔25mの場合は50m)につき1箇 所、延長40m(又は50m)以下の	- O ₄	基準高▽	±50		
通 的 工		息版設は除く」 (鋼矢板) (軽量鋼矢板)	所、延長40m(又は50m)以下の ものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m(測点間隔 25mの場合は25m)につき1箇		根入長	設計値以上		
種		(コンクリート矢 板) (広幅鋼矢板)	25mの場合は25m)につき1箇 所、延長20m(又は25m)以下の ものは1施工箇所につき2箇所。	1881 1881	変 位 ℓ	100		
		(可とう鋼矢 板)	ものは1施工箇所につき2箇所。					
	5	縁石工 (縁石・アス カーブ)	1箇所/1施工箇所		延 長 L	-200		
	6	小型標識工	1箇所/1基		設置高さH	設計値以上		
			基礎1基毎	w (D)	幅 w (D)	-30		
				1 1 1 1	基礎 高さ h	-30		
				H h	根入れ長	設計値以上		

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土	木工	事 キ	共通編:一層	般施工】 施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	して	ハるか確認す	⁻ る。		単位:mm
	法確認		工種	測定基準	≛・ 測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 共通的工種	7		(立入防止柵) (転落(横断) 防止柵) (車止めポス	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は 1基につき1箇所測定。 1箇所/1施工箇所		基礎	幅 w 高 さ h パイプ取付高 H	-30 -30 +30 -20		
	8		エ (ガードレール)	1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施 工箇所。 1箇所/1施工箇所	w h	基礎	幅 w 高 さ h 一ム取付高 H	-30 -30 +30 -20		
			路側防護柵 エ (ガードケーブ ル)	1箇所/1基礎毎		基礎	幅 w 高 さ h 延 長 L	-30 -30 -100		
				1箇所/1施工箇所		ケー	ーブル取付高 H	+30 -20		
	9			各線種毎に、1箇所テストピース により測定。		(厚 さ t 溶融式のみ) 幅 w	設計値以上		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編·一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

		大理補:一片	股施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。						
節	法確定	工種	測定基準	- 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
	10		1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。	h	高 さ h	±30			
	11	面塗装工	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要性を求め、 塗付作業の開始前に搬入量(充 金付作業終了時に使用 量(空缶数)を確認し、各々必要 量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500m2とする。		塗装使用量	鋼道路橋塗装・腐食便 覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5各 塗料の標準使用量と 標準塗膜」の標準使用 量以上。			
	12	ン桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS製品の場合は、JIS認定 工場の成績表にかえることができ る。 JIS製品以外はJIS製品に準ずる。	L δ_1	析長 L(m) 断面の外形寸法 橋 桁 の そ り	±L∕1000 ±5 ±8 ±10			

工事名:	対象笛所·
エデコ・	対家箇所:

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
------	---	---	----	---	---	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土オ	ĮΨ	事共通編:-	-般施工】 施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	こしているか確認す	ける。		単位:mm
寸法 節 :	確認		測定基準	≛·測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
		2 プレテンショ ン桁製作工 (購入工) (スラブ桁)			桁長 L(m)	±10…L≦10m ±L/1000…L>10m		
種			JIS製品以外はJIS製品に準ずる。		断面の外形寸法	±5		
					橋 桁 の そり δ ₁	±8		
				δ_1	横方向の曲がり δ ₂	±10		
	3	1 ポストテンシン桁製作工		₩1	幅(上) w ₁	+10 -5		
			レッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端 部、中央部の3箇所とする。		幅(下) w ₂	±5		
			JIS製品を使用する場合はJIS認 定工場の成績表に替えることがで	h	高さh	+10 -5		
			きる。 l: 支間長(m)	W ₂	桁 長 ℓ 支間長	l<15…±10 l≧15…±(l−5) かつ −30mm以内		
					横方向最大タワミ	0.82		
		セグメント製	析全数について測定。桁断面寸 法測定箇所は、図面の寸法表示		析長ℓ	_		
		作工(購入工)	箇所で測定。		断面の外形寸法(mm)	_		
	14	プレキャスト セグメント主 桁組立エ	析全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 析断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。		桁 長 Q 支間長	l<15…±10 l≥15…±(l-5) かつ -30mm以内		
			l:支間長(m)		横方向最大タワミ	0.82		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月	H	I)
-----------------	---	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

<u>【土</u>	木工	工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。					る。		単位:mm
	法確認		工種	測定基準	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 共 通 的	15		PCホロース	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所(支 点付近)で1箇所当たり両端と中	w1	基 準 高 ▽	±20		
田田 日的 日工 種				央部の3点、幅及び厚さは1径間 当たり両端と中央部の3箇所。	t 000	幅 w ₁ , w ₂	−5~+30		
種				※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-1床版・横組工に準ずる。		厚 さ t	-10 ~ +20		
				15年9分。 2:支間長(m)	W2	析長ℓ	l<15…±10 l≥15…±(l-5) かつ		
							—30mm以内		
	16	1	PC箔桁製作	桁全数について測定。			I		
	10	'	工	基準高は、1径間当たり2箇所(支 点付近)で1箇所当たり両端と中		基準高▽	±20		
				央部の3点、幅及び厚さは1径間 当たり両端と中央部の3箇所。		幅(上) w ₁	−5~+30		
				※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-1床版・横組エ	w1	幅(下) w ₂	−5~+30		
				に準ずる。 £:支間長(m)		内空幅 w ₃	±5		
					h1 h2 w3	高 さ h ₁	+10 -5		
					w ²	内空高さ h ₂	+10 -5		
						析長ℓ	$ \begin{array}{l} \ell < 15 \cdots \pm 10 \\ \ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5) \end{array} $		
						111 12 2	かつ -30mm以内		
	16	2	桁製作工	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端 部、中央部の3箇所とする。		幅(上) w ₁	−5~+30		
				※鉄筋の出来形管理基準につい では、第3編2-18-1床版・横組工	W1	幅(下) w ₂	−5~+30		
				に準ずる。 2:支間長(m)	h_1 w_3	内空幅 w ₃	±5		
					W2	高 さ h ₁	+10 -5		
						内空高さ h ₂	+10 -5		
						析長ℓ	$ \begin{array}{l} \ell < 15 \cdots \pm 10 \\ \ell \ge 15 \cdots \pm (\ell - 5) \end{array} $		
							かつ -30mm以内		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事共通紀・一郎族工】 族工学中での出来形部分が担攻値を満たしているか確認する

寸法確認 工程 测点性法测点性 测点性 测点性 测点性 测点性 计极值		
節 条 技番	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 17 根固めブロッ 施工延長40m(測点間隔25mの		
種		
1施工箇所毎 延長 層 積 -200 L1,L		
L1,L 2 乱 積 —t/2		
18 沈床工 1組毎 基準高 ▽ ±150		
幅 w ±300		
延 長 L -200		
19 捨石工 施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、延長 W 40m(又は50m)以下のものは1 W 基準高▽ -100 -100		
#40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。 幅 w -100		
延 長 L -200		
B 数 ±0段		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸	法確認				・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 共	条 24	文番 1 伸縮装t (ゴムジョ		『中央部付近を測定。		据付け高さ	舗装面に対し 0~-2		
通 的 T		(+)			高さ	表面の凹凸	3		
種					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2		
		2 伸縮装置 (鋼製フィ	ン 各3点計	いては車道端部、中央部 ¹ 9点。		据付け高さ高	±3		
		カージョ	ント) 縦方向及中央部の	及び横方向間隔は両端、 の計3点。		さ 車線方向各点誤 差の相対差	3		
						表面の凹凸	3		
					高さ 舗装面	歯型板面の歯咬み合 い部の高低差	2		
					舗装面	縱方向間隔	±2		
						横方向間隔	±5		
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	N工事共通編:一般施工』 施工述中での日米形部分が規格値を満たしているが傾			しているが、推覧のも	<u> </u>		単位:mm	
寸法 節	を確認 条 ┃ ホ		測定基準	⊭ •測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 2 共 通	26	1 多自然型護岸工	場合は50m)につき1箇所、延長		基準高▽	±500		
的		(巨石張り、 巨石積み)	40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。	Q V	法 長 ℓ	-200		
種				2	延 長 L	-200		
		岸工	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、延長 40m(又は50m)以下のものは1		法 長 ℓ	-100		
		(WC 4.0k)	施工箇所につき2箇所。	l t	厚 さ t	-0.2t		
					延 長 L	-200		
				2888				
2	27	1 羽口工 (じゃかご)	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、延長 40m(又は50m)以下のものは1	Q	l<3m 法長	-50		
			施工箇所につき2箇所。	T	l l≧3m	-100		
					厚 さ t	-50		
				2888				
		2 羽口工 (ふとんかご かご枠)	施工延長40m(測点間隔25mの 、場合は50m)につき1箇所、延長 40m(又は50m)以下のものは1	L ₁	高 さ h	-100		
		J'C #	施工箇所につき2箇所。		延長 L ₁ , L ₂	-200		
				h h				
				L ₂				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	【エネエ事共通編:一般旭工】 旭工述中での山米形部方が規格値を両にしているが確認する。							
寸法码 節 条		_ 工種 :	測定基準	≛・ 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 28 共 通		プレキャスト カルバートエ	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、施工	L 	基 準 高 ▽	±30		
的		ボックスエ) (プレキャスト	延長40m(又は50m)以下のもの は1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。		※幅 w	-50		
種		パイプエ)		poo 000 poo 0000	※高 さh	-30		
			1施工箇所毎	h h	延 長 L	-200		
29	1	(プレキャストU 型側溝)	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、施工 延長40m(又は50m)以下のもの は1施工箇所につき2箇所。	₩tı	基準高▽	±30		
		溝) (管渠)	1箇所/1施工箇所		延 長 L	-200		
				194				
	2		施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、施工		基準高▽	±30		
			延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。	t ₁ W t ₂	厚さ t ₁ , t ₂	-20		
				$egin{array}{c c} h_1 & h_2 & h_2 \end{array}$	幅 w	-30		
					高さ h ₁ , h ₂	-30		
			1施工箇所毎		延長し	-200		

工事名:	対象箇所:

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
------	---	---	----	---	---	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			天 迪 編:一:	一般他工」他工述中での日米形部分が規格値を両にしているが確認する。					
	法確定		工種	測定基準	·測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3	29	3	暗渠工	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所。		基準高▽	±30		
共通的工				延長40m(又は50m)以下のもの は1施工につき2箇所。 (なお、製品使用の場合は、製品	W1	幅 w ₁ , w ₂	-50		
種				寸法は、規格証明書等による。)		深 さ h	-30		
				1施工箇所毎	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	延長し	-200		
			# 1. II.						
	30		集水桝工	1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合	t ₃ —	基準高▽	±30		
					W ₁	※厚さ t₁~t₅	-20		
					$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	※幅 w ₁ , w ₂	-30		
					h ₁ h ₂ t ₅	※高さ h ₁ , h ₂	-30		
	31		現場塗装工	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点と し、各点の測定は5回行い、その 平均値をその点の測定値とする。		塗 膜 厚	a. ロットの塗膜の 値は、090%以最小合 は、090%以最小信値のの りに値のの は、070%以最小合 は、070%以の 関連には、070%を では、の では、の では、の では、の では、 では で で で で で に が り で に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に が り に り に		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		六進柵.	2編:一般他工』 他工述中での山米形部分が規格値を両にしているが確認する。						
寸法 節	·確認 入 枝	工種	測定基準	■・ 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
	1	一般事項 (切込砂利)	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		幅 w	設計値以上			
健 工		(割ぐり石基礎 エ)	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	t ₂	厚さ t1 ,t2	-30			
		(均しコンクリート)		t ₁	延 長 L	各構造物の 規格値による			
	3 1	基礎工(護 岸) (現場打)	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	±30			
		(現場打)	箇所につき2箇所。	w w	幅 w	-30			
				h	高 さ h	-30			
					延 長 L	-200			
	2	基礎工(護 岸)	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	±30			
			箇所につき2箇所。		延 長 L	-200			

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

エハエザ							年世. 111111
寸法確認節 ↓ 条 ↓ 枝番	工種 	測定基準•	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 1	既製杭工 (既製コンク	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±50		
	リート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)			根入長	設計値以上		
				偏 心 量 d	D/4以内 かつ100以内		
				傾 斜	1/100以内		
			x				
2	既製杭工 (鋼管ソイルセ メント杭)	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±50		
) - 1 · 10L)		п	根入長	設計値以上		
			d X	偏 心 量 d	100以内		
				傾 斜	1/100以内		
			x	杭 径	設計値以上		
			0 0 0 0				

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土:	木工	事 ‡	共通編:一	般施工】 施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	しているか確認す	る。		単位:mm
節	法確認		工種	測定基準	≛•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 基 礎	5		場所打杭工	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±50		
は 一礎 日本						根入長	設計値以上		
						偏心量d	100以内		
					H A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	傾 斜	1/100以内		
					x'	杭径	設計値(公称径)-30 以上		
	6		深礎工	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±50		
						根入長	設計値以上		
					y	偏心量d	150以内		
					x	傾斜	1/50以内		
	_		<u> </u>	時 原 点 また ほん ほんきにん					
	7		ソン基礎エ	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基 準 高 ▽	±100		
					√ _k	ケーソンの長さ ℓ	-50		
					t h t t t	ケーソンの幅 w	-50		
					q d 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ケーソンの高さ h	-100		
) y	ケーソンの壁厚 t	-20		
					×	偏心量d	300以内		
				면면 번 수가 된가 면 > 된 /					
	8			壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±100		
			1定工		<u>√</u> ₩	ケーソンの長さ ℓ	-50		
						ケーソンの幅 w	-50		
					4 Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y Y	ケーソンの高さ h	-100		
					→	ケーソンの壁厚 t	-20		
					x	偏心量d	300以内		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確言	 工種	測定基準・測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 基	9	鋼管矢板基 礎工	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	基準高▽	±100		
世 二 二				· -	根入長	設計値以上		
					偏心量d	300以内		
				x ^u				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

				文心工』 心工処中でのは	未形部分が規格値を両に	してで、の22.7世間の3	る 。	1	単位:mm
	法確認		工種	測定基準	- 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
5 石	3	1 그	ックエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準高▽	±50		
ブロ		(=	ック積) [・] コンクリートブ	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。厚さは上端部 及び下端部の2箇所を測定。		ℓ<3m 法長	-50		
Iッ ク 積		<u>п</u> ,	ック張り)	人の「利用のプログーログ」と		l l≧3m	-100		
積 (張					t ₁ t ₂	厚さ(ブロック積張)t1	-50		
が						厚さ(裏込)t2	-50		
					t_1 t_2	延 長 L	-200		
			ックエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	±50		
				m(文は30m)以下のものは「旭工 箇所につき2箇所。	L ₁	法 長 ℓ	-100		
					Q Z	延長 L1,L2	-200		
					Q L				

工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編・一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

		共进編:一:	<u> </u>	しているか唯認する	ි		単位:mm	
寸法 節 身		工種	測定基準	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
	3	コンクリートブ ロックエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	±50		
ブロ			箇所につき2箇所。	W W M M M M M M M M	幅 w	-100		
リット クト 積				間詰かご	延 長 L	-200		
(連結ブロック				
	1	エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準高▽	±50		
			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。厚さは上端部 及び下端部の2箇所を測定。	t ₁ t ₂	ℓ<3m 法長	-50		
			及び下端部の2箇別を別た。	$\mathbf{Q} = \mathbf{Q} $	l l≧3m	-100		
				t ₁ t ₂	厚さ(ブロック)t1	-50		
					厚さ(裏込)t2	-50		
				t_1 t_2	延 長 L	-200		
Ę	5		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準高▽	±50		
			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。厚さは上端部 及び下端部の2箇所を測定。		ℓ<3m 法長	-50		
			NO I PINITE MEMORIAL	Q /	l l≧3m	-100		
				t ₁ /	厚さ(石積・張)t1	-50		
				mm \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	厚さ(裏込)t2	-50		
				t_2	延 長 L	-200		

工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事サ通紀・一郎佐工】 佐工冷山での出来形部分が担牧値を満たしているか破割する

	上木工事共通編: 一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。 単位:ml											
寸	法確	認				規格値						
節	条	枝番	工種	測定基準・測定箇所	測定項目	個々の()	測定値 K)		l定値の平 (X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
6	7	:	舗装工	基準高は延長40m毎に1箇所の 工事規模の考え方 割とし、道路中心線および端部で 中規模以上の工事とは、管理図等を	基準高▽	±40	±50	_	_			
般 舗 装			(下層路盤工)	測定。厚さは各車線200m毎に1 描いた上での管理が可能な工事を 箇所を掘り起こして測定。幅は、延 長80m毎に1箇所の割に測定。 上あるいは使用する基層および表層	厚き	-45	-45	-15	-15			
工				日本の日本に「国内の制に例と。 日本の心では使用する本層のよび収入 用混合物の総使用量が、3,000t以上 の場合が該当する。		-50	-50	_	_			
				小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結								
				果を施工管理に反映できる規模の二 事をいい、同一工種の施工が数日記 上	車							
		:	アスファルト 舗装エ	幅は、延長80m毎に1箇所の割と するものをいう。 し、厚さは各車線200m毎に1箇所 ①施工面積で2.000m2以上10.000m	1_ ,	-25	-30	-8	-10			
			(上層路盤工) 粒度調整路盤 T	を掘り起こして測定。 未満。 ②使用する基層及び表層用混合物	_	-50	-50	_	_			
				の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9 個以上の割合で規格値を満足しなり	+							
				ればならないとともに、10個の測定 値の平均値(X10)について満足しな	:							
				ければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の								
		:	アスファルト 舗装エ	平均値は適用したい 幅は、延長80m毎に1箇所の割と 工事規模の考え方 し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ 中規模以上の工事とは、管理図等を	上厚 さ	-25	-30	-8	-10			
			(上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	アーを採取もしくは掘り起こして測 描いた上での管理が可能な工事を にい、舗装施工面積が10,000m2以	幅	-50	-50	_	_			
			文定处在工	上あるいは使用する基層および表所 用混合物の総使用量が、3,000t以上 の場合が該当する。								
				小規模工事とは、中規模以上の工 事より規模は小さいものの、管理結								
				果を施工管理に反映できる規模の事をいい、同一工種の施工が数日は	車							
		4	アスファルト	続する場合で、次のいづれかに該当するものをいう。 幅は、延長80m毎に1箇所の割と ①施工面積で2,000m2以上10,000m	2							
		:	舗装工 (加熱アスファ	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ 未満。 アーを採取して測定。 ②使用する基層及び表層用混合物	厚 さ 	-15	-20	-5	-7			
			ルト安定処理 エ)	の総使用量が500t以上3,000t未満厚さは、個々の測定値が10個に9	幅	-50	-50	_	_			
				個以上の割合で規格値を満足しなりればならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しな								
				ければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の	-							
				亚构植け適田 たい								

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事サ通紀・一郎佐工】 佐工冷山での出来形部分が担牧値を満たしているか破割する

[:			共通編:一:	- 般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。										
	寸法確	認					規格値			規格値				
餌	5 条	枝番	工種	測定基準·測定箇所	測定項目		測定値 X)		(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考			
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下					
6 -	-	5	アスファルト 舗装工 (基層エ)	幅は、延長80m毎に1箇所の割と 工事規模の考え方し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコー中規模以上の工事とは、管理	図等を 厚 さ	-9	-12	-3	-4					
船部	i		(奉僧工 <i>)</i>	アーを採取して測定。 描いた上での管理が可能なコ いい、舗装施工面積が10,000 上あるいは使用する基層およ)m2以 幅	-25	-25	_	_					
装工	-			用混合物の総使用量が、3,00 の場合が該当する。	00t以上									
				小規模工事とは、中規模以 事より規模は小さいものの、電 駅は、延馬80毎に1第50の割上 果を施工管理に反映できる規	管理結									
		6	アスファルト舗 装工 (表層工)	幅は、延長80m毎に1箇別の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ 続する場合で、次のいづれか	ヾ数日連 厚 さ	-7	-9	-2	-3					
			, 2,,,,	9 るものをいう。 ①施工面積で2,000m2以上10),000m2 幅	-25	-25	_	_					
				未満。 ②使用する基層及び表層用注 の総使用量が500t以上3,000	昆合物 t未満			3mプロフィル (σ)2.4mn 直読式						
				厚さは、個々の測定値が10 個以上の割合で規格値を満足	個に9 平坦性 足しなけ	-		追読式 (足付き) (σ)1.75m	ım以下					
				ればならないとともに、10個の 値の平均値(X10)について満 ければならない。ただし、厚さ	足しな									
				タ数が10個未満の場合は測算 平均値は適用しない。										
				 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取によ	り床版									
				等に損傷を与える恐れのある は、他の方法によることができ	場合									
				維持工事においては、平坦性 を省略することができる。	三の項目									

工事名: 対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確			以他工』 他工座中での日本が即分が焼作値を啊!			規格値				
節	条	枝番	工種	測定基準·測定箇所	測定項目	個々の()	測定値 X)		定値の平 X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
6 — фл	8		半たわみ性 舗装工 (下層路盤工)	基準高は延長40m毎に1箇所の 工事規模の考え方割とし、道路中心線及び端部で測 中規模以上の工事は、管理図等を	基準高 ▽	±40	±50	_	_		
般舗装				定。 描いた上での管理が可能な工事を 厚さは各車線200m毎に1箇所を いい、基層および表層用混合物の 掘り起こして測定。 使用量が3,000t以上の場合が該当	総 厚 さ	-45	-45	-15	-15		
Î				幅は、延長80m毎に1箇所の割に する。 測定。 小規模工事とは、中規模以上のエ	· ·事	-50	-50	_	—		
				より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工をいい、同一工種の施工が数日連 でいい、同一工種の施工が数日連 である場合が該当する。	事						
		2		幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、各車線200m毎に1箇	厚さ	-25	-30	-8	-10		
			(上層路盤工) 粒度調整路盤 工	所を掘り起こして測定。	幅	-50	-50	_			

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が担格値を満たしているか確認する

[]	· 个 _	- 争 :	氏週編:一	股施工】 施工途中での出来形部分か規格値を満たしているか確認する。							
-	け法確 ┃	認					規村	各値			
節	条	枝番	工種	測定基準·測定箇所	測定項目	個々の()	測定値 <)	10個の測 均(定値の平 X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
6 一 般	8		舗装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割と 工事規模の考え方 し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ 中規模以上の工事は、管理図等を アーを採取もしくは掘り起こして測 描いた上での管理が可能な工事を	厚さ	-25	-30	-8	-10		
舗装			(工層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	定。 いい、基層および表層用混合物の総 使用量が3,000t以上の場合が該当	幅	-50	-50	—	_		
I I				する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	=						
				コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版	i						
			舗装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコは、他の方法によることができる。 アーを採取して測定。	厚き	-15	-20	-5	-7		
			ルト安定処理工)	#持工事においては、平坦性の項目 を省略することができる。	幅	-50	-50	_			

工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法石	惟認											
				測定基準・測定箇所		規格値						
条	: 枝	番	工種			則定項目 個々の測定値 (X)		10個の測定値の平 均(X10)		上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
		쇧	舗装工	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ中規模以上の工事は、管理図等を		-9	-12	-3	-4			
			(基僧工)	いい、基層および表層用混合物の	総幅	-25	-25	_	_			
				する。 小規模工事とは、中規模以上の工 より規模は小さいものの、管理結果を施工では、である。 という。 「は、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	事 事 事							
		숅	舗装工	し、厚さは、1,000㎡毎に1個の割でする場合が該当する。	厚を	-7	-9	-2	-3			
			(衣眉工)	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床		-25	-25	_	_			
				は、他の方法によることができる。	目	-	_	(σ)2.4mm 直読式 (足付き)	n以下			
		8	6	条 枝番 8 5 半たわみ性 舗装工 (基層工) 6 半たわみ性 舗装工	*****	************************************	条 枝番	条 枝番 上種 測定基準・測定箇所 測定項目 (X) 中規模以上の工事は、「中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をしい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアーを採取して測定。 「厚さは、1,000㎡毎に1個の割でコアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。 維持アニー・メディス・コードをオスートをオスコードをプロロードを開始しまする。 ロージ ロー 中規模 以上の工事をいいまする ロージ ローターを開始しまする ローターを開始しまする ローターをいまする ローターを開始しまする ローターを開始しまする ローターをいまする ローターを表する ローターを見替える ローターを見りまする ローターを見替える ローターを見替える ロ	条 枝番 上標 別定基準・測定園所 別定項目 (X) 均 中規模以上 小規模以上 中規模以上 以上 中規模以上 以上 日本 (基層工) 「原さは、1,000㎡[こ1個の割でコーターを採取して測定。」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	条 枝番上標測定基準・測定箇所測定項目(X)均 (X10)中規模 以上小規模 以上小規模 以上小規模 以上小規模 以上中規模 以上上、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。工事規模の考え方中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000比上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を拡工管理に反映できる規模の工事を拡工管理に反映できる規模の工事を拡工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。コアーを採取して測定。「厚 さ -7 -9 -2 -3 コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。	条 校番 工権 測定基準・満足園所 測定項目 (X) 均 (X10) 工業(計分・子生り/欄、下投: 別足表間(検質値) 8 5 半たわみ性 編装工 (法第工) 情は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でつから確理が可能な工事を比い、基層および表層用混合物の総使用量が3000以上の場合が該のの以上の場合が該のの以上の場合が該のの以上の場合が該のの以上の場合が該当する。	

(期間: 年 月 日~ 年 月	日)
-----------------	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	寸法確?	認		測定基準·測定箇所		規格値		各値			
節	条	枝番	工種				個々の測定値 10 (X) 10		定値の平 X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
6	9			基準高は延長40m毎に1箇所の割 工事規模の考え方とし、道路中心線及び端部で測 中規模以上の工事は、管理図等を サルナルスの管理が見ばなる。	基準高▽	±40	±50	_	_		
般舗				定。 描いた上での管理が可能な工事を 厚さは各車線200m毎に1箇所を いい、基層および表層用混合物の総 掘り起こして測定。 使用量が3,000t以上の場合が該当	厚さ	-45	-45	-15	-15		
装工				幅は、延長80m毎に1箇所の割に する。 測定。 小規模工事とは、中規模以上の工事		-50	-50	—	_		
				より規模は小さいものの、管理結果 を施工管理に反映できる規模の工事 短は、延長90mを伝えな話の割よっ をいい、同一工種の施工が数日連続	1						
		2	排水性舗装 工 (上層路盤工)	幅は、延長80m毎に1箇別の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇 する場合が該当する。	厚き	-25	-30	-8	-10		
			(工度的金工) 粒度調整路盤 工	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版	幅	-50	-50	_	_		
				等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることができる。							
				維持工事においては、平坦性の項目 を省略することができる。	1						

□事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編·一般施工】 施工途中での出来形部分が担格値を満たしているか確認する

			天通編:一	・般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。								単位:mm
寸	法確認	認						規	各値			
節	条	枝番	工種	測定基準·測定箇所		測定項目	()	D測定値 10個の測定 (X) 均(X		(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
6	9		排水性舗装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	中規模以上の工事は、管理図等を	厚き	-25	-30	-8	-10		
般舗装工			(上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	アーを採取もしくは掘り起こして測 定。 	描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総 使用量が3,000t以上の場合が該当	幅	-50	-50	_	_		
I			エ	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果	厚さ	-15	-20	-5	-7		
			(加熱アスファ ルト安定処理 エ)	アーを採取して測定。	を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	幅	-50	-50	_	_		
			1.1L 1.1.1 A4:14		コアー採取について				•			
		5	エ	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ アーを採取して測定。	橋面舗装等でコアー採取により床版 等 に損傷を与える恐れのある場合は、	厚さ	-9	-12	-3	-4		
			(圣僧工)	プーを休収して測定。 	他の方法によることができる。	幅	-25	-25	_	_		
					維持工事においては、平坦性の項目 を省略することができる。				_			
				幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡毎に1個の割で		厚さ	-7	-9	-2	-3		
			(衣眉工)	コアーを採取して測定。		幅	-25	-25	_	_		
						3 10 11.			3mプロフィル			
						平坦性		_	直読式 (足付き) (σ)1.75m	m以下		

工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事共通紀·一般施工」 施工冷山での出来形部分が担格値を満たしているか確認する

			大理編:一月	·般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。 							単位:mm	
寸	法確	認						規格値				
節	条	枝番	工種	測定基準	集・測定箇所	測定項目	個々の()	()	10個の測 均(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
6	11	1	ファルト舗装	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	中規模以上の工事は、管理図等を	厚き	-15	-20	-5	-7		
般舗装			エ (加熱アスファ ルト安定処理	アーを採取して測定。	描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当	幅	-50	-50	_	_		
Ĭ			工)		する。 小規模工事とは、中規模以上の工事							
					より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事							
		2	グースアス	幅は 延長80m毎に1箇所の割と	をいい、同一工種の施工が数日連続 する場合が該当する。		_					
			ファルト舗装 エ	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版	厚き	-9	-12	-3	-4		
			(基層工)		等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることができる。	· 幅	-25	-25		_		
					維持工事においては、平坦性の項目							
					を省略することができる。							
		3		幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡毎に1個の割で		厚き	-7	-9	-2	-3		
				コアーを採取して測定。		—————————————————————————————————————	-25	-25	_	_		
									3mプ°ロフィ			
						平坦性		_	(σ)2.4mn 直読式	n以下		
									(足付き) (σ)1.75m	m以下		

工事名:	対象箇所:
— , <u> </u>	738201

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編・一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

<u>【土</u>	不工	- 事	共通編:一:	般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を	一満たしている	もか 催記	でする。			単位:mm
寸	法確認	忍					規材	各値		
節	条	枝番	工種	□			個々の測定値 (X) 10個の測定値の 均(X10)		上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上		
6 —	10		エ	基準高は片側延長40m毎に1箇所 の割で測定。	基準高▽	±	50	_		
般舗装				厚さは、片側延長200m毎に1箇所 掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測	同・シ	t < 15cm	-30	-10		
装工				定。	厚き	t ≧ 15cm	-45	-15		
				※歩道舗装に適用する。 	幅	-1	00	_		
			エ	幅は、片側延長80m毎に1箇所の 割で測定。	厚 さ t	_	9	-3		
				エ) 厚さは、片側延長200m毎に1箇所 ロアーを採取して測定。 幅		-2	25	_		
				※歩道舗装に適用する。						
	12		舗装工	基準高は延長40m毎に1箇所の 工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工に	面積 基準高▽	±40	±50	_		
				測定。厚さは各車線200m毎に1 が2,000㎡以上とする。 箇所を掘り起こして測定。幅は、延 小規模とは、表層及び基層の加 長80m毎に1箇所の割に測定。 スファルト混合物の総使用量か		-2	4 5	-15		
				未満あるいは施工面積が2,000 満。厚さは、個々の測定値が10	O㎡未 幅 O個に 幅	!	50	_		
				9個以上の割合で規格値を満足ければならないとともに、10個の一切値(X10)について満足	の測定					
			舗装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割と ければならない。ただし、厚さのし、厚さは各車線200m毎に1箇所 タ数が10個未満の場合は測定	>≕	-25	-30	-8		
			(粒度調整路 盤工)	で掘り起こして別た。	幅	-!	50	_		
				コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により 等に損傷を与える恐れのある ⁵						
				は、他の方法によることができ						
				·	•					

	(期間:	年	月	日~	年	月	日
--	------	---	---	----	---	---	---

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十木工事共通編·一般施工」 施工途由での出来形部分が担格値を滞たしているか確認する

対象権限	単位:mm
数	
12 3 コンクリート 幅は、延長80m毎に1箇所の割と	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
編装工	
「	
大満あるいは施工面積が2,000㎡未満。	
以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなけた場接工 (アスファルト 中間層) 中間層) 中間層) 「アーを採取して測定。 「厚さは、1,000㎡に1個の割でコアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によ	
4 コンクリート 舗装工 (アスファルト 中間層) 幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ 次が10個未満の場合は測定値の平 物値は適用しない。	
中間層)	
橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によ	
	·
	/ 0 / 0
┃	
接版工) 向に3箇所以上測定、幅は、延長 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 幅 -25	() ()
L、全延長とする。	
場合 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなけ ればならない。ただし、厚さのデータ	
数が10個未満の場合は測定値の平	/ DI / DI
6 コンクリート 基準高は、延長40m毎に1箇所の 舗装工 割とし、道路中心線及び端部で測 (転圧コンク 定。厚さは、各車線200m毎に1箇	
Hand Hand	

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十大工事共通編·一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

		六週棚.		出来形部分が規格値を満た	ししい	いるか確認する。				単位:mm
よ確	認	1					規	烙值		
条	枝番	工種	測定基準	≛·測定箇所	測定項目	個々の (X		10個の測定値の平 均(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
						中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上		
12	7	舗装工		工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	厚さ	-25	-30	-8		
		リート版工) 粒度調整路盤		小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t	幅	-5	50	_		
				未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個						
				以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。						
				維持工事においては、平坦性の項目 を省略することができる。						
	8	舗装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは、掘り起こして	中規模とは、1層あたりの施工面積	厚さ	-25	-30	-8		
		リート版工) セメント(石灰・ 瀝青)安定処	測定。	小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	幅	-5	50	_		
		理工		満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ						
	9		し、字では、1,000mに「囮の司でコ	ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ	厚さ	-9	-12	-3		
		リート版工)アスファルト中	アーを採取して測定。	数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	幅	-2	25	_		
		間層		コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合						
	10	舗装工	厚さは、各車線の中心付近で型枠 据付後各車線200m毎に水糸又は	は、他の方法によることができる。 維持工事においては、平坦性の項目	厚さ	-1	15	-4.5		
		リート版工)	向に3箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に1箇所の割で測定、平坦	3箇所以上測定、幅は、延長 毎に1箇所の割で測定、平坦	幅	-3	35	― ― 転圧コンクリートの		
			性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		平坦性	_	_	転圧コングリートの 硬化後、3mプロ フィルメーターによ り(σ)2.4mm以下。		
			隣接する各目地に対して、道路中 心線及び端部で測定。		目地段差			<u> </u> ±2		

工事名:	対象箇所:
— , <u> </u>	738201

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事共通紀・一処体工」 体工冷山での出来形部分が担換値を満たしているか確認する

<u>[</u> ±	木ユ	事:	共通編:一	般施工】施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	:している	るか確認	忍する。			単位:mm
寸	法確	認						規格	各値		
節	条	枝番	工種	測定基準・測定箇所		測定項目	個々の()		10個の測定値の平 均(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上		
6 一 虹	13	1	装工	基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。原さは、冬東線200m気に1第	中規模とは、1層あたりの施工面積	基準高▽	±40	±50	_		
般舗装			(1)信仰逝土/	80m毎に1箇所の割に測定。	が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500t	厚さ	-2	45	-15		
エ					未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個	幅	-(50	_		
			* F L = .		以上の割合で規格値を満足しなければなるないとはに、10個の測定体						
			装工 (上層路盤工)	し、厚さは、谷里線200m毎に1固	の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平	厚さ	-25	-30	-8		
			粒度調整路盤 工		均値は適用しない。	幅	- [50	_		
		3	装工	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	中規模とは、1層あたりの施工面積	厚さ	-25	-30	-8		
			(上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	アーを採取もしくは掘り起こして測定。	が2,000m以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱ア スファルト混合物の総使用量が500t	幅	-(50	_		
					未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。						
					厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなけれ ばならないとともに、10個の測定値						
			* F L = .4		の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平						
			装工	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	均値は適用しない。	厚さ	-15	-20	-5		
			ルト安定処理 エ)		コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合	幅	_ <u>(</u>	50	_		
					は、他の方法によることができる。						
		5	薄層カラー舗	幅は、延長80m毎に1箇所の割と							
			装工	し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。		厚さ	-9	-12	-3		
						幅	-2	25	_		

(期間:	年	月	日~	年	月	日))
------	---	---	----	---	---	----	---

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編·一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			氏通編:一:	般施工】 施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	している	るか催記	どする。			単位:mm				
寸法	去確認	認								規格値					
Ť	条	枝番	工種	測定基準	- 測定箇所	測定項目	個々の()		10個の測定値の平 均(X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考				
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上						
-	14		ブロック舗装 エ (下層路盤エ)	基準高は、延長40m毎に1箇所の 割とし、道路中心線及び端部で測 空	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積 が2,000㎡以上とする。	基準高▽	±40	±50	_						
10000000000000000000000000000000000000				厚さは、各車線200m毎に1箇所を 掘り起こして測定。	小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t	厚さ	-2	1 5	-15						
-				幅は、延長80m毎に1箇所の割に 測定。	未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。	幅	-5	50	_						
					厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなけ										
		2	エ	幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1箇	ればならない。ただし、厚さのデータ 数が10個未満の場合は測定値の平	厚さ	-25	-30	-8						
			(工層的盛工) 粒度調整路盤 工	別を掘り起こして測定。	均値は適用しない。	幅	-5	50	_						
	,	3	エ	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ	中規模とは、1層あたりの施工面積	厚さ	-25	-30	-8						
			(上層路盛工) セメント(石灰) 安定処理工		小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t	幅	-5	50	_						
					未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなけれ										
		4	ブロック舗装 エ	幅は、 延長80m毎に1箇所の割と	ばならないとともに、10個の測定値 の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ	厚さ	-15	-20	-5						
			(加熱アスファ ルト安定処理 エ)	/一を採取して別定。	数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	幅	_ - [50	_						
					コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によ										
	ļ		エ	幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、厚さは、1,000㎡に1個の割でコ		厚さ	-9	-12	-3						
			(基層工)	アーを採取して測定。		幅	-2	25							

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土 :	木工	事夫	共通編:一点	投施工】 施工途中での出	来形部分が規格値を満た	してい	るか確認	する。											j	単位:mm
	法確 条	認 枝番	工種	測定基準	・測定箇所	測定項	目	規格値			上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)					備考				
							個々の: (X		10個の測定値 均(X10)											
6 —	15			厚さは40m毎に現舗装高切削後 の基準高の差で算出する。	€.	厚さ	t -	7	-2		\ 	/ [) / [) () (□ /	()	/ 0)	
般 舗 装 工				測定点は車道中心線、車道端及 びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所/	<u> </u>	幅	w -2	,5	_		/ <u> </u> ()	/ [) / [) () (□ /	()	/ □)	
Ĭ				施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。 測定方法は自動横断測定法によることができる。	現舗装w															
	16	:	舗装打換え エ	各層毎1箇所/1施工箇所					50		/ 0	/ [/ [/ 	/ 0		
						路盤工	<u>v</u> <u>E</u>	-1	100		/ 0	/ [) (] / [/) (/ 0)	
					W	_	享 St	 該当	4工種		/ 0	/ [/ / [) 		/ 0)	
					w w	ſ	量 N	-:	25		/ [/ [) (/ 0)	
					L	舗設工	<u>⊭</u> ŁL	-1	100		/ 	/ [) () () (□ /)	/ ()	/ 0)	
							享 St	該当	4工種		/ [/ [) / [) () (()	/ 0)	
																			ı	
	17		エ	厚さは40m毎に現舗装高とオー バーレイ後の基準高の差で算出 する。		厚さ	t		-9		()	/ L) () () (<u> </u>	()	(])	
				測定点は車道中心線、車道端及 びその中心とする。	<u>@</u> - -	幅	W		25		/ <u> </u>	() () (<u> </u>		()	
				幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。	t + 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187 187	延長	L	- 1	100		/ <u> </u>	() () (<u> </u>)	
				がた。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。	現舗装 w	平坦	生 –	_	3mプロフィルメータ (σ) 2.4mm以下 正式(足付 き)(σ)1.75mm	直読	()	<u> </u>) ((

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編・一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

		共通編:一:	般施工』 施工途中での出	来形部分が規格値を満た	しているか唯認り	ବି		単位:mm
2		工種	測定基準	・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
日本	2	路床安定処 理工	基準高は、道路中心線及び端部		基準高▽	±50		
本			で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。	<u>6</u> 	施工厚さ t	-50		
選集					幅 w	-100		
選換工 推工延長40m(測点階隔25mの場合は150m)につきで語解、返長40m(50m)以下のものは1能工語解につきで語解。				t	延 長 L	-200		
会は50m以につきも箇所、延長40mにつきも箇所につきを簡析。 「Pさは中心検及び端部で測定。 「製作さ t				W				
Addition Color Table Table								
Table 2	3		合は50m)につき1箇所、延長40	Ģ.	基準高▽	±50		
# 基層安定処 施工延長10mにつき、1測点当た 切がドマット海 上)			につき2箇所。		置換厚さ t	-50		
# 接尾安定処 施工延長10mlcつき、1測点当た 「					幅 w	-100		
本				W	延 長 L	-200		
本								
理工 (サンドマット海上) り5点以上測定。				w				
理工 (サンドマット海上) り5点以上測定。		* B & * **	#-77 E 40 1-0-2 4 199 E 199 1					
上) 法長 -500 () () () () () () () () () w. (L)は施工延長40mにつき1 箇所、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 (L)はセンターライン及び表裏法 天端延長 L -500 () () () () () () () () () ()		理工	施工延長10mにつき、1測点当た り5点以上測定。		基準高▽	特記仕様書に明示		
w. (L)は施工延長40mにつき1 箇所、80m以下のものは1施工箇 所につき3箇所。 (L)はセンターライン及び表裏法 大端幅W -300 () () () () () () () 天端延長 L -500 () () () () () () () () ()		上)		② ③ ④ ① ⑤	法長	-500		
				w. (L)	天端幅w	-300		
			所につき3箇所。	2 2	天端延長 L	-500		
/A < 11 2°			肩で行う。					

工事名:	対象箇所:
上事句.	· 对象固则:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編·一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

	共通編:一周	投他工】 他工途中での日	出来形部分が規格値を満た	しているか確認する	<u>ි</u>		単位:mm
寸法社 節 条	工種	測定基準	■・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
7地盤改良工	パイルネットエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。	Q w v t	基準高▽ 厚 さt 幅 w 延 長 L	±50 -50 -100 -200		
6	エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こ して測定。	Ç t	施工厚さ t 幅 w 延 長 L	-50 -100 -200		
7 . 8	レーンエ (サンドドレーン エ) (ペーパード レーンエ) (袋詰式サンド ドレーンエ) 締固め改良 エ	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数 全本数 計器管理にかえることができる。	W W W W W	位置・間隔 w 杭 径 D 打 込 長 さ h サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、イルの砂投入量	士100 設計値以上 設計値以上		
9	(粉体噴射撹	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。 全本数	※余長は、適用除外	基 準 高 ▽ 位置・間隔w 杭 径 D 深 度 ℓ	-50 D/4以内 設計値以上 設計値以上		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大工事サ通紀・一郎佐工】 佐工冷山での出来形部分が担格値を満たしているか確認する

【土	木工	事共	通編:一層	股施工】 施工途中での出	来形部分が規格値を満たし	しているか確認す	る。		単位:mm
節	法確認		工種	測定基準	・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
10 仮 設 工	5	1 :	T. I	基準高は施工延長40m(測点間 隔25mの場合は50m)につき1箇 所、延長40m(又は50m)以下のも		基準高▽	±100		
五			鋼矢板)	所。延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)	- ISINSIISII	根入長	設計値以上		
	5	-	上留・仮締切 エ	全数 (任意仮設は除く)	d	削孔深さℓ	設計深さ以上		
			(アンカーエ)		y H x	配置誤差d	100		
					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$				
	5	- 1-	エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工	Li				
		<u>}</u>	長り工)	箇所につき2箇所。		法長り	-100		
				1施工箇所毎	L 2	延長 L1 L2	-200		
	5	-	L	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは1施工箇		基準高▽	-50		
			締切盛土)	所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		天端幅w	-100		
					IFIID	法 長 ℓ	-100		

工事名:	対象箇所:
	7.3 次回7/1.

	(期間:	年	月	日~	年	月	日
--	------	---	---	----	---	---	---

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土っ	木工	<u>事</u> き	<u> </u>	般施工】 施工途中での出	出来形部分が規格値を満た	満たしているか確認する。				
節	法確認		工種	測定基準	≛•測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
10 仮 設 工		5	エ	施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇 所につき2箇所。 (任意仮設は除く)		;	基 準 高 ▽	-50		
	9		工(壁式)	基準高は施工延長40m(測点間 隔25mの場合は50m)につき1箇	Q	;	基 準 高 ▽	±50		
				所。延長40m(又は50m)以下のも のについては1施工箇所につき2 箇所。		į	連壁の長さ ℓ	-50		
				変位は施工延長20m(測点間隔 25mの場合は25m)につき1箇	▼		変 位	300		
				所。延長20m(又は25m)以下のも のは1施工箇所につき2箇所。	L		壁 体 長 L	-200		
	10		1.1 <u>1.</u> \= # + = *	+ * + - 1 + - 7 = 10	<u>□ ₩ □</u>					
	10		工(柱列式)	基準高は施工延長40m(測点間 隔25mの場合は50m)につき1箇 所。延長40m(又は50m)以下のも			基準高▽	±50		
				のについては1施工箇所につき2 箇所。	▼ D → T D →		連壁の長さ ℓ	-50		
				変位は施工延長20m(測点間隔 25mの場合は25m)につき1箇 所。延長20m(又は25m)以下のも			変位	D/4以内		
				のは1施工箇所につき2箇所。			壁 体 長 L	-200		
	22		 法面吹付工	施工延長40mにつき1箇所、40m	D: 杭径		1			
				以下のものは1施工箇所につき2箇所。		法長	l<3m	-50		
					e	l l	l≧3m	-100		
				200㎡につき1箇所以上、200㎡以 下は2箇所をせん孔により測定。	Q		t<5cm	-10		
					, Vir	厚さ	t≧5cm	-20		
					e e	t	但し、吹付面に凹げ	凸がある場合の最小 の50%以上とし、平均		
							厚は設計厚以上			
				1施工箇所毎			延 長L	-200		

工事名:	対象箇所:	Ė

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
主任検査職	員名				印	
品質検査員	員名				印	

【土木工事共通絲	扁:一般施工】 施工途中での出来形部分が規	格値を満たしているか確認する。			単位:mm
寸法確認 節	種 測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
12 1 1 鋳造費	製品全数を測定 支沓	孔の直径差	+2 -0		
場	※1) 片面削り加工も含む。	上下 部鋼 センターボスを基 構造 物と <1,000mm	基準にした孔位置のずれ		
作 工	※2) ただし、ソールプレート接触 面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ	物と の接 中心	1以下		
共	寸法に対してはCT13を適用する。	の接 合用 ボル ト孔	と 基準にした孔位置のずれ		
		>1,000m	1. 5以下		
		、 孔の ≦100mm	+3 -1		
		アン カー ボル 1000m	+4 -2		
		ト用 孔 (鋳 放し)	JIS B 0403-95 CT13		
		セン ボスの直径 ター	+0 -1		
		ボス ボスの高さ	+1 -0		
		上沓の橋軸及び直角方向の 長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13		
		全移 ≦300mm	±2		
		動量 2 >300m	±l/100		
		上・下面加工仕上げ	±3		
		組立 高さ ク	±3		
		高さ ク H リー ト構 造用	(H/200+3)小数点以下 切り捨て		
			JIS B 0403-95 CT14		
		鋳放し肉厚寸法普通 ※1)	JIS B 0403-95 CT15		
		寸法削り加工寸法	JIS B 0403-91 粗級		
		ガス切断寸法	JIS B 0417-79 B級		

	118 45-2
工事名:	対象箇所:

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
------	---	---	----	---	---	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分か規格値を満たしているか確認する。 							
寸法確 節 条		工種	測定基準	- 測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
		鋳造費 (大型ゴム支	製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支沓の厚さ(t)		幅W	W, L, D≦500	0~+5		
		沓工)	の最大相対誤差	補強材	長さ	500 <w, d≦<br="" l,="">1500mm</w,>	0~+1%		
				t L	径D		0~+15		
				¥ w		t≦20mm	±0.5		
				t	厚さt	20 <t≦160< td=""><td>±2.5%</td><td></td><td></td></t≦160<>	±2.5%		
				D		160 <t< td=""><td>±4</td><td></td><td></td></t<>	±4		
	3	仮設材製作	図面の寸法表示箇所で測定			平面度 T	'		
	3	工			部材	部材長l(m)	±3····h≦10		
					HISTORY	HIPPI IXX(III)	±4····h>10		
		刃口金物製 作工	図面の寸法表示箇所で測定。				±2····h≦0.5 ±3····0.5 <h≦1.0< td=""><td></td><td></td></h≦1.0<>		
				h			±4····1.0 <h≦2.0< td=""><td></td><td></td></h≦2.0<>		
						外周長L(m)	±(10+L/10)		
3	1		主析・主構 各支点及び各支点中央付近を測			フランジ幅w(m)	±2·····w≦0.5 ±3·····0.5 <w≦< td=""><td></td><td></td></w≦<>		
		る検査を実施 する場合)	定。 床版など			腹板高 h(m)	±3······0.5 < w ≦ 1.0 ±4·····1.0 < w ≦		
		ション仮組立	構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。			腹板間隔b'(m)	2.0 ±(3+w/2)••2.0 <w< td=""><td></td><td></td></w<>		
		検査を行う場 合)	JIS製品を使用する場合はJIS認定工場の成績表にかえることができ	w I型鋼げた トラス弦材			_(0, 11, 2)		
			る。 主桁		4				
			 各支点及び各支間中央付近を測 定。	<u></u> b √ d		鋼桁及びトラス等 仮の の部材の腹板	h/250		
			h:腹板高(mm) b:腹板又はリブの間隔(mm)		部材	平面 毎点 おおり かんしゅう	;		
			w:フランジ幅(mm)	W/2	精度	(mm) のフランジ鋼床 版のデッキプレー	. b/150		
				Δ δ		ト フランジの直角度 δ			
				¥ H		(mm)	w/200		
			原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測	<u> </u>		部材 鋼桁	±3····ℓ≤10 ±4····ℓ>10		
			定。			長l トラス、アーチなど	±2····ℓ≤10 ±3····ℓ>10		
			トラス・アーチ等 主要部材全数を測定	δ		圧縮材の曲がりδ (mm)	ℓ ∕1000		
			2: 部材長(mm)			※規格値のW, Lに代え	し 入する数値はm単位の数	値である。	
						 ただし、「板の平面度δ	、フランジの直角度δ、原	E縮材の曲がりδ」の規格値のh,b,w,εに代入する数値はmm単位の数値とする。	

□事名:	対象箇所:
□事名:	対象箇所:

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
------	---	---	----	---	---	----

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		大地州.		不が即力が流行性を削たし					平位.111111
寸法码 節 条		- 工種 :	測定基準	•測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3	1	桁製作工 (仮組立によ	主桁、主構全数を測定	全長 全長 (一) (一) (L) (L) (L) (L)		全長、支間長 L(m)	±(10+L/10)		
		る検査を実施する場合) (シュミレー ション仮組立	各支点及び各支間中央付近を測 定			主桁・主構の中心間距 離 B(m)	±4······B≦2 ±(3+B/2)··B>2		
		検査を行う場合)	トラス・アーチ等 両端部及び中心部を測定	hŢŢ		主構の組立高さ h(m)	±5······h≦5 ±(2.5+h/2)··h>5		
			最も外側の主桁又は主構について 支点及び支間中央の1点を測定 L:測線上(m)	ξ th		主桁、主構の通りる (mm)	5+L/5······L≦ 100 25·····L>100		
			鋼桁等 各主桁について10~12m間隔を測定。 L:主桁の支間長(m) トラス・アーチ等 各主構の各格点を測定 L:主構の支間長(m)	b L	仮組精度	主桁、主構のそり δ (mm)	-5~+5······L≦20 -5~+10··········· 20 <l≦40 -5~+15·············· 40<l≦80 -5~+25············ 80<l≦200< td=""><td></td><td></td></l≦200<></l≦80 </l≦40 		
			どちらか一方の主桁(主構)端を測 定。	8 		主桁、主構の橋端における出入り差δ(mm)	設計値 ±10		
			鋼桁等 各主桁の両端部を測定 h:主桁の高さ(mm) トラス・アーチ等 支点及び支間中央付近を測定。 h:主構の高さ(mm)	$\delta \longrightarrow h$		主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000		
			主析、主構の全継手数の1/2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナスを認めない。	δ,		現場継手部のすき間	設計値±5 よする数値はm単位の数	/ □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □ / □	
			/ / / で 100/00 0	δ_2		ただし、「主げた、主構の	の鉛直度δ」の規格値の	hに代入する数値はmm単位の数値とする。	

工事名: 対象箇所:

(期間: 年	F 月 日	~ 年	月 日)
--------	-------	-----	------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法確				木が印力が免俗値を何たし			1016 / 1		平12 : mm
節条		工種		≛∙測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
	2	桁製作工 (仮組立によ る検査を実施 しない場合)	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測 定。 床版など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。	h L W I 型鋼げた		フランジ幅w(m) 腹板高 h(m) 腹板間隔b'(m)	$\pm 2 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot w \le 0.5$ $\pm 3 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot 0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot 1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdot \cdot \cdot 2.0 < w$		
			主桁 各支点及び各支間中央付近を測 定。	b	部材精度	鋼桁等の部材の 板の 腹板 平面	h/250		
			h:腹板高(mm) b:腹板又はリブの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	δ μ μ/2 δ		度 δ 箱桁等のフラン (mm) ジ鋼床版のデッキプレート	b/150		
				Į T		フランジの鉛直度 δ (mm)	w/200		
			主要部材全数を測定。	Q Q		部材 長1 鋼桁 (m)	±3····ℓ≦10 ±4····ℓ>10		
						・ ※規格値のw、ℓに代入 ただし、「板の平面度δ	する数値はm単位の数f 、フランジの直角度 δ 」 <i>0</i>	』 値である。 D規格値のh、b、wに代入する数値はmm単位の数値とする。	
		(鋼製堰堤製	全数を測定。	L./		部材の水平度	10		
		作工(仮組立 時)		Н		堤 長 L	±30		
				200 L		堤 長 ℓ	±10		
				図a 図b 格子形 鋼製スリット 鋼製砂防ダム ダムA型		堤 幅 W	±30		
				H		堤 幅 w	±10		
				H ₂		高 さH	±10		
				図 c 図 d 平 U 鋼製スリット 鋼製 L 型 ダム B 型 スリットダム		ベースプレートの高さ	±10		
			図エの土はまった ぎょりりょう			本体の傾き	±H/500		
4		検査路製作	図面の寸法表示箇所で測定		部材	部材長잁(m)	±3····ℓ≤10 ±4····ℓ>10		

□事名:	対象箇所:	主任検査職員

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「十大丁東井涌紀・一処体工」 体工冷山での出来形部分が担攻値を満たしているか確認する

	天通編:一f	<u> 投施工】 施工途中での出</u>	来形部分が規格値を満たし	ているか確認する。				
寸法码 節 条	工種	測定基準	- 測定箇所		測定項目 規格値 上段∶日付・チェック欄、下段∶測定表値(検査値)			
5		製品全数を測定。	w *	部材	部材長w(m)	0~+30		
		両端及び中央部付近を測定		后知	組み合わせる伸縮装 置との高さの差 δ 1(mm)	設計値 ±4		
			δ ₁	仮組 立時	フィンガーの食い違い δ 2(mm)	±2		
6	落橋防止装 置製作工	図面の寸法表示箇所で測定		部材	部材長잁(m)	±3····ℓ≤10 ±4····ℓ>10		
7	橋梁用防護柵製作工	図面の寸法表示箇所で測定		部材	部材長£(m)	±3····ℓ≤10 ±4····ℓ>10		
8	アンカーフ レーム製作工	軸心上全数測定。	<u> </u> b		上面水平度δ1(mm)	b/500		
			$h \downarrow h \downarrow h \downarrow h$	仮組 立時	鉛直度 δ 2 (mm)	h/500		
			$\longrightarrow \oint \oint dz$		高さh(mm)	±5		
9	レー生!! /	各支点及び各支間中央付近を測 定	h		フランジ幅w(m)	±2·····w≦0.5 ±3·····0.5 <w≦ 1.0</w≦ 		
			I 型鋼げた		腹板高 h(m)	$\pm 4 \cdot \cdot \cdot \cdot \cdot 1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdot \cdot 2.0 < w$		
		各支点及び各支間中央付近を測 定	δ	部材	フランジの直角度 δ (mm)	w/200		
		原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	¥ <u> </u>	1	部材長£(m)	±3····ℓ≤10 ±4····ℓ>10		
		各主桁について、10~12m間隔を 測定。	δ	仮組立時	主桁のそり δ(mm)	-5~+5······L≦20 -5~+10····· 20 <l≦40< td=""><td></td><td></td></l≦40<>		
10	鋼製配水管 製作工	図面の寸法表示箇所で測定	L	部材	部材長£(m)	±3····ℓ≦10 ±4····ℓ>10		

施工フ	プロセス検査(出来形) チェックシート		(期間:	年	月	日~	年	月	日)
工事名:	対象箇所:		主任検査職	員名				印	
		'	品質検査	員名				印	

【土木工事共通編:一般施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法確認 節 ↓ 条 ↓ 材	 末由	測定基準·測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
11	工場塗装工	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了後に 測定し、内面塗装では内面塗装終 了時に測定。 1ロットの大きさは、500m2とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、 各点の測定は5回行い、その平均 点をその点の測定値とする。		a、ロット塗装厚の平均値は、目標塗装厚の子合計値の90%以上。b、測定値の最小値は、目標塗膜の70%以上。c、測定値の分布の標底は、側差は、の分布の膜をはい。ただし、測定を設定をいっただし、測慮を記し、測定値がりではがりではがりではがりではない。		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	大胆柵.	放心工』 心工歩中 この正	米形部分か規格値を満た	しているが惟説り	<u>る。</u>		単位:mm
寸法確認 節	工種	測定基準	- 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
1 1 3 橋 梁	架設工 (鋼橋) (クレーン架 設) (ケーブルク	各桁毎に全数測定。 L: 主桁・主構の支間長(m)	全長 全長	全長·支間長L(m)	±(20+L/5)		
設工	レーン架設) (ケーブルエレ クション架設) (架設桁架設) (送出し架設)	L:主桁・主構の支間長(m)	ξ Δ	通 りδ(mm)	±(10+2L/5)		
	(トラベラーク レーン架設)	主桁、主構を全数測定。 L: 主桁・主構の支間長(m)	δ	そ りδ(mm)	±(25+L/2)		
		各支点及び各支間中央付近を測 定。		※主桁、主構の中心 間距離B(m)	±4···B≦2 ±(3+B/2)···B>2		
		どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	δ 	※主桁の橋端におけ る出入差 る (mm)	設計値 ±10		
		各主桁の両端部を測定。 h:主桁・主構の高さ(mm)	$\delta \longrightarrow h$	※主桁、主構の鉛直 度 る(mm)	3+h/1,000		
		主桁、主構の全継手数の $1/2$ を 測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5 mm以下の場合は、マイナスを認めない。	δ_1 δ_1 δ_2	※現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2 (mm)$		/ □ / □ / □ / □ / □ / □ () () () () () () ※は仮組立検査を実施しない工事に適用	
				※規格値のL, Bに代入ただし、「主桁、主構の領	する数値はm単位の数 沿直度δ」の規格値のh	対値である。 nに代入する数値はmm単位の数値とする。	

工事名:	対象箇所:

(期間:	年	月	日~	年	月	日)
主任検査職	战員名				印	
品質検査	員名				印	

		共通編:一:	般施工】 施工途中での出来形部分	が規格値を満たして	いるか確認す	る。		単位:mm
丁法 ^元		工種	測定基準•測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
1 1			各桁毎に全数測定。		全 長・支 間	_		
橋梁架設		=几∖	一連毎の両端及び支間中央につ いて各上下間を測定。	桁	テの中心間距離	_		
設 工		架設工支保	主桁を全数測定。		そり	_		
		工 (固定) (移動)						
		架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)						
1 2 4	1		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇		ℓ<5m	-200		
法面工			所につき2箇所	切土法長				
十 十 十 通		(植生シート工)(植生マット		法長 ℓ	l≧5m	法長の-4%		
		工) (植生筋工) (人工張芝 工) (植生穴工)						
	2		施工延長40mにつき1箇所、延長 40m以下のものは1施工箇所につ き2箇所	法長	ℓ<5m	-200		
		(客土吹付 工)		Q.	l≥5m	法長の-4%		
			施工面積200m2につき1箇所、面 積200m2以下のものは、1施工箇 所につき2箇所。		t<5cm	-10		
			検査孔により測定。	孔により測定。 厚さ t	t≧5cm	-20		
					但し、吹付面に凹	凸がある場合の最小 『の50%以上とし、平均		
			1施工箇所毎		延長 L	-200		
							<u> </u>	

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【十木工事共通編・一般施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する

			上进編:一	般他工』 他工述中でのは	出来形部分が規格値を満た		いるか唯認り	ବ ୍		単位:mm
	法確認条		工種	測定基準	■・測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
1 4 法 面	3		吹付エ (コンクリー ト) (モルタル)	施工延長40mにつき1箇所、40m 以下のものは1施工箇所につき2 箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長	The second secon	法長	l<3m	-50		
土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土				の測定が困難な場合は直線法長とする。		Q	l≧3m	-100		
理				200㎡につき1箇所以上、200㎡以 下は2箇所をせん孔により測定。			t<5cm	-10		
					1	厚さ	t≧5cm	-20		
					e e e e e e e e e e e e e e e e e e e			凸がある場合の最小 『の50%以上とし、平均		
				1施工箇所毎			延長し	-200		
	4	(法枠工 (現場打法枠	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	_	法長	l<10m	-100		
			工) (現場吹付法 枠工)	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。		l	l≧10m	-200		
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	枠延延長100mにつき1箇所、枠 延延長100m以下のものは1施工			幅 w	-30		
				箇所につき2箇所。			高 さ h	-30		
							卆中心間隔a	±100		
				1施工箇所毎	ᄴᄵᅌᅘᄺᅼᄀᅼᄗᅙᆝᄝᅁᆂᆉᇩ		延 長 L	-200		
	F		 法枠工 (プレキャスト	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	曲線部は設計図書による	法長	ℓ<10m	-100		
			法枠工)	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。		長見	l≧10m	-200		
				1施工箇所毎			延 長 L	-200		
	6		アンカーエ	全数(任意仮設は除く)	d >		削孔深さ 0	設計値以上		
					y θ	酉	己置誤差 d	100		
					H	也	ん孔方向 θ	±2.5度		
					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$					

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	卸
品質検査員名	印

【十木工事共通編・共通施工】 施工途由での出来形部分が担格値を満たしているか確認する

	【土木工事共通編:共通施工】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。										
	†法確 ┃ 条		工種	測定基準・測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考		
1 5			(一般事項) 場所打擁壁	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	w ₁	基準高▽	±50				
推 壁 工				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	h	厚 さ t	-20				
一 一 一 一 通					✓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	裏 込 厚 さ	-50				
通 						幅 w ₁ , w ₂	-30				
						高さ h<3m	-50				
					Tt W ₂	h h≧3m	-100				
				1施工箇所毎	W ₁	延 長 L	-200				
					$\begin{array}{c c} t \\ \hline \\$						
	2		擁壁工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	±50				
				箇所につき2箇所。 1施工箇所毎							
				加工固別 毋 		延 長 L	-200				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:共通施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	<u>【エパエ事共通補: 共通池工】 旭工処中での田木が印力が祝信値を何たしているが確認する。</u>												丰 世.111111															
	□ 寸法確認 工 節 条 枝番		工種	測定基準・測定箇所			測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)					備考														
1 5	3		補強土壁工 (補強土	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基	隻準高▽	±50	()	/ [()	/ 0	/ 0) (] / [)												
擁 壁			メ)壁工法)	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	Δ Δ	高さ	h<3m	-50	/ 0	/ [/ 0	/ [/ 0	/ / [)												
工 #			(多数アン カー式補強土 エ法)			h	h≧3m	-100	/ D	/ [/ 0	/ [/ 0	/ / [)												
通			(ジオテキス タイルを用い		h h	1	鉛直度△	±0.03hかつ±300以内	,	,						, <u> </u>												
			た補強土工 法)				控え長さ	設計値以上																				
				1施工箇所毎		3	—————— 延 長 L	-200	/ [/ [/ [/ [/ 0	/ [)												
									, ,	, ,	, ,	, ,	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	/ \	/	7												
	4		エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基	基準高 ▽	±50	/ D	/ [()	/ [/ 0	/ [] / [)												
				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。		法	高さh<3m	-50		/ [/ 0	/ 0	/ / C)												
					L ₂	長紀	高さh≧3m	-100		/ [()	/ 0	/ 0	/ / C)												
					<u>Q/2</u>	2/2		<u>Q/2</u>	<u>Q/2</u>	2/2	<u>Q/2</u>	<u>0/2</u>	<u>Q/2</u>	<u>0/2</u>				J	厚さt ₁ , t ₂ , t ₃	-50	/ D	/ [()	/ [/ 0	/ / C)
				1施工箇所毎	Q/2 Q/ ts	延長	長 L ₁ , L ₂	-200	/	/ [/ 0	/ 0	/ 0) () ()												
					l≥3m l < 3m																							

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:共通施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸	法確認	忍	丁 插				測定項目		規构	各値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値) 備考		
1 6	節 条 1 3 6		浚渫船運転 工	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。				上限	下限				
浚 渫 工			船)	横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要 に応じ中間点も加える。ただし、各				200ps	+200	-800			
共通				測定値の平均値の設計基準高以下であること。			電 <u>5</u> 気 5	500ps	+200	-1000			
通					₹	基準高		,000ps	+200	-1200			
						高▽	ディ 2	250ps	+200	-800			
							ゼ 6	420ps 600ps	+200	-1000			
							ル 船 1,3	,350ps	+200	-1200			
							幅		-2	00			
						延長		長	-2	00			
	_												
		2	エ	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。	\ \	į	基 準 高	∀	上限⊣	⊦2 00			
				横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要 に応じ中間点も加える。ただし、各		幅		幅		200			
				測定値の平均値の設計基準高以 下であること。			延長		延長		-2	200	

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【土木工事共通編:共通施工】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	寸法確認 工種 5 条 枝番		測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
1 8	1		基準高は、1径間当たり2箇所(支 点付近)で、1箇所当たり両端と中	基準高▽	±20		
床 版 T			央部の3点、幅は1径間当たり3箇 所、厚さは型枠設置時におおむね 10㎡に1箇所測定。	幅 w	0~+30		
			(床版の厚さは、型枠検査をもって 代える。)	厚 さ t	-10 ~ +20		
			1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断表が4年1第51年7	鉄筋のかぶり	設計値以上		
			面変化毎1箇所とする。	鉄筋の有効高さ	±10		
			1径間当たり3箇所(両端及び中央)測定。	鉄 筋 間 隔	±20		
			1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋 は全数、橋軸直角方向の鉄筋は 加工形状毎に2mの範囲を測定。	上記、鉄筋の有効高さ がマイナスの場合	±10		

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「河川編・筑埕灌岸」施工途由での出来形部分が排換値を滞たしているか確認する

			毕 提展 上	施工途中での出来形部を	♪が規格値を満たしている <i>が</i>	い確認する。			単位:mm
	法確条	枝番	工種		-測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
7 法 覆	4		護岸付属物	各格子間の中央部1箇所を測定。	w d	幅 w 高 さ h	-30 -30		
護岸工					h	IBI С 11			
8 水 制	8		杭出し水制工	1組毎	w ∀	基準高▽	±50		
工						幅 w	±300		
						方 向	±7°		
						延 長 L	-200		
13 光 ケ	3		配管工	接続部(地上機器部)間毎に1箇 所。	(L) t	埋設深t	0~+50		
ーブル				接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】		延長L	-200		
配管工					接続部 接続部 (地上機器部)				
	4		ハンドホール エ	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合	t ₃	基準高▽	±30		
					W ₁	※厚さ t1~t5	-20		
					$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	※幅 w1,w2	-30		
					$egin{array}{c c} h_1 & \hline & h_2 \\ \hline \end{array}$	※高さ h1,h2	-30		
					t ₅				

T事名·	対象箇所:
工事句:	7] 水固///

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名

品質検査員名

印
印

【河川編: 樋門・樋管】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	福認		──他上途中での出米形部)/J 71年 III グ り () ()			単位∶mm	
節:			測定基準	準 -測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
	6		柔構造樋門の場合は埋戻前(載 荷前)に測定する。	t_5 $\stackrel{W_1}{\longrightarrow}$	基準高▽	±30		
•			函渠寸法は、両端、施工継手箇 所及び図面の寸法表示箇所で測 空	$t_6 \rightarrow - t_7$	厚さ t1~t8	-20		
植 管 本 体			定。 門柱、操作台等は、図面の寸法 表示箇所で測定。	t ₃	幅 w1, w2	-30		
体 工			プレキャスト製品使用の場合は、 製品寸法を規格証明書で確認す	$\begin{array}{c c} h_1 \\ t_4 \end{array}$	内空幅 w3	-30		
			るものとし、『基準高』と『延長』を 測定。	t_1 t_2	内空高 h1	±30		
				w ₂ →	延 長L	-200		
				t ₅ t ₈				
	6 2	(ヒューム管) (PC管)	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、延長 40m(又は50m)以下のものは1		基準高▽	±30		
		イフ) (ダクタイル鋳	施工箇所につき2箇所。					
		鉄管)			延 長 L ———————————————————————————————————	-200		
	7	翼壁工、水叩						
	8	Ĭ		t w t	基準高▽	±30		
				h	厚 さ t	-20		
				t t	幅 w	-30		
			図面の寸法表示箇所で測定。		高さり	±30		
					延 長 L	-50		

工事名:	対象箇所:	主任検査職員名	印
		品質検査員名	印

【河川編:水門】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

(期間: 年月日~年月日)

	去確認 条 枝	工種 番	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
6 水	7 8	床版工 堰柱工	図面の寸法表示箇所で測定。	基準高▽	±30		
	9	門柱工 ゲート操作台 エ		厚 さ t	-20		
体工	'	胸壁工		幅 w	-30		
				高 さ h	±30		
				延 長 L	-50		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名

品質検査員名

fp fp

【河川編:堰】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	ナ法 確		<u>- </u>	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	指摘事項
6 可	13		閘門工、 土砂吐工	図面の寸法表示箇所で測定。	基準高▽	±30		
動堰	14				厚 さ t	-20		
動堰本体工					幅 w	-30		
_					高さり	±30		
					延 長 L	-50		
7 固	8	;	水叩工	基準高、幅、高さ、厚さは両 端、施工継手箇所及び構造	基準高▽	±30		
□堰	9 .		土砂吐工	図の寸法表示箇所で測定。	厚 さ t	-20		
固定堰本体工					幅 w	-30		
				h	高 さ h	±30		
					堰 L<20m 長 ————	-50		
					L ≥20m	-100		
8 魚	3		魚道本体工	施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、 40m(又は50m)以下のもの	基準高▽	±30		
道 工				は1施工箇所につき2箇所。 t ₁ w t ₂ (なお、製品使用の場合の製 k ** ********************************	厚さ t1, t2	-20		
				品寸法は、規格証明書等による)	幅 w	-30		
				$egin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	高さ h1, h2	-30		
					延 長 L	-200		

工事名:	対象箇所·
上事有∶	对多固则:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名

品質検査員名

fp fp

【河川編:堰】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸	法確認	忍 工話	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	指摘事項
9 管	2	管理橋橋台工	橋軸方向の断面寸法は中央 及び両端部、その他は図面の	基準高▽	±20		
理橋下			寸法表示箇所で測定。	厚 さ t	-20		
部工			h_2 h_2 h_2	天 端 幅 w1 (橋軸方向)	-10		
			$\frac{t}{t}$	天 端 幅 w2 (橋軸方向)	-10		
				<u></u> 敷 幅 w3 (橋軸方向)	-50		
			W ₃ W ₃ W ₃ W ₂ W ₁ W ₂ W ₁	高 さ h1	-50		
			$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	胸壁の高さ h2	-30		
			$egin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	天 端 長 L1	-50		
				敷 長 L2	-50		
			W3 W3	胸壁間距離 L	±30		
				支 点 長 及 び中心 線の変 化	±50		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名

品質検査員名

	印	
	印	

【河川編:排水機場】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	1717/2012	<u> </u>				単位∶mm	
	工 · 種	測定基	基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
		図面の表示箇所で測定。	L →	基 準 高 ▽	±30		
				厚 さ t	-20		
			<u> </u>	幅 w	-30		
				高さ h1, h2	±30		
			h_2 ∇ ∇ h_1	延 長L	-50		
7	燃料貯油槽 工	図面の表示箇所で測定。 	L →	基準高▽	±30		
				厚 さ t	-20		
		•		幅 w	-30		
				高さ h	±30		
			h	延 長L	-50		
7	コンクリート 床版工	図面の表示箇所で測定。	L →	基準高▽	±30		
				厚 さ t	-20		
			w	幅 w	-30		
				高さ h	±30		
			h h	延 長 L	-50		
			t				
	·確認 全 枝番	在認 工 工	T A A A A A A A A A	接談 1	技術 種 測定集年 測定集日	選集 接接 接接 接接 接接 接接 接接 接接	接接 接 接 接 接 接 接 接 接

工事名:	対象箇所:
一	7] 水回77.

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名 品質検査員名

印
印

【河川編:床止め・床固め】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	十法 確				1本心のカル、兄俗心を何に				半世.111111
節	条	枝番			基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 床	6		(床固め本体	図面に表示してある箇所で 測定。		基準高▽	±30		
止めエ			工)		L1 w1	天 端 幅 w1	-30		
_					$\begin{array}{c c} & & & \\ \hline \end{array}$	堤 幅 w2	-30		
						堤 長 L1, L2	-100		
					L_2 w^2	水通し幅 21, 22	±50		
	8			基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。		基準高▽	±30		
				厚さは目地及びその中間点 で測定。		厚 さ t	-30		
						幅 v	-100		
						延長し	-100		
					W				
5	6		側壁工	1. 図面の寸法表示箇所で		基準高▽	±30		
床				測定。 2. 上記以外の測定箇所の		_ 圣 华 同 V	<u> </u>		
固 め エ				標準は、天端幅・天端高で 各測点及びジョイント毎に測	$\begin{array}{c c} L & W^1 \\ \hline \end{array}$	天 端 幅 w1	-30		
				定。 3. 長さは、天端中心線の水	7	堤 幅 w2	-30		
				平延長、又は、測点に直角 な水平延長を測定。		長さし	-100		
					₩2				

工事名: 対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	日

EVEN TO SET THE POLICE AND THE POLIC										単位:mm						
	法確認		工種 測定基準・測定箇所 測定項目 規格値 上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)				全 企位)		備考							
5 護	5			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準	售高▽	±30	/ [) ()	/ [/ [/ [) ()	/ [
岸 基 礎				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	/ M ====	幅	w	-30	/ 🗆		/ [/ [/ 0		/ [
工					h L	高	さ h	-30	/ 0				/ 0		/	
						延	長 L	-200	/ 🗆		/ [/ [/ 0		/ 0	
	6			ブロック個数40個につき1箇所の 割で測定。基準高、延長は施工延	/ 89	基準	準高 ▽	±50	/ 0		/ [/ [/ 0		/ 0	
			I	長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所に		ブロッ	ック厚 t	-20	/ 0		/ [/ 0	/ 0) ()	/ [
				つき2箇所。		ブロッ	ック縦幅w₁	-20	/ [) ()	/ _()	/ _()	/ [) ()	/ [
					w,	ブロッ	ック横幅w ₂	-20	/ [) ()	/ _()	/ _()	/ [) ()	/ [
					W ₂	延	長 L	-200	/ [) ()	/ [/ _()	/ 🗆) ()	/ [
6 護	4		海岸コンク リートブロック	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準	售高 ▽	±50	/ [) ()	/ □	/ □	/ 🗆) ()	/ [
岸 工			I	m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。		法長	l<5m	-100	/ [) ()	/ □	/ □	/ [) ()	/ 🗆	
					*////	_	l≧5m	L×(-2%)	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ 	
							ċ t	-50	/ [) ()	/ □ ()	/ 	/ [) ()	/ 	
						延	長L	-200	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ <u> </u> ()	
	5		コンクリート 被覆エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	Àν	基準	售高 ▽	±50	/) ()	()	()	/ [) ()	/ <u></u>	
				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	Q STATES	144	2<3m	-50	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ 	
						長 ℓ ℓ≧3m		-100	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ 	
					l l	厚 t	t<100	-20	/ [) ()	()	/ _()	/ [) ()	/ 	
						t t≧100		-30	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ <u> </u> ()	
						裏 込	. 材 厚 t'	-50	/ [) ()	()	()	/ [) ()	/ 	
					Q	延	長L	-200	/ 0) ()	/ □ ()	/ □ ()	/ [) ()	/ 🗆	

工事名:	】 対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川海岸編:堤防護岸】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確認 条 材		測定基準	≛•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
8 天端	2	コンクリート 被覆エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基準高▽	±50		
被覆			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	幅 w	-50		
Î					厚 さ t	-10		
				[A]	基 礎 厚 t'	-45		
					延 長 L	-200		
9 波 返	3	波返工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	$\mathbf{w_1} \ \mathbf{w_2}$	基準高▽	±50		
上工			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。	h ₂	幅 w ₁ , w ₂	-30		
				h ₁)	高さ h<3m h1, h2, h3	-50		
					高さ h≧3m h1, h2, h3	-100		
					延 長 L	-200		

工事名: 対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川海岸編:突堤人工岬】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		【河川海岸編:突堤人工岬】 施工途中での出来形部分か規格値を満たしているか確認する。							
	法確認 条 枝	 工種 番	測定基準	•測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 突	4		施工延長10mにつき、1測点当た り5点以上測定。			本 均 し	±50		
突堤基礎						表 面 均 し	±100		
工				2 3 4	基	異形ブロック据 付面(乱積)の 荒 高さ	±500		
				(5)	準高	均 異形ブロック据 付面(乱積)以 外の高さ	±300		
				w ₁ .(L ₁)		展形ブロック据 被 付面(乱積)の 覆 高さ	±500		
				2		均 異形ブロック据 し 付面(乱積)以 外の高さ	±300		
			幅は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、延			法 長 ℓ	-100		
			長40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。			天 端 幅 w ₁	-100		
						天端延長L ₁	-200		
4 突	5		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40	- <u>-</u> -		幅 w	-300		
突堤基礎			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所			延 長 L	-500		
エ									
5 突 堤 本	2	捨石工	施工延長10mにつき、1測点当た り5点以上測定。	2 3 3	基準	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500		
本本				0/ ⑤	高▽	異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ	±300		
エ			幅は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、延 長40m(又は50m)以下のものは1	w ₁ . (L ₁)		法 長 ℓ	-100		
			長40m(又は50m)以下のものは「 施工箇所につき2箇所、延長はセ ンターライン及び表裏法肩。	,		天 端 幅 w ₁	-100		
				<u>V</u>		天端延長 L ₁	-200		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

単位:mm

【河川海岸編:突堤人工岬】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

								平位.111111																							
節	寸法確 条		工種	測定基準	≛・ 測定箇所		測定項目	規格値		上段	:日付・チェッ	ク欄、下段∶獡	則定表値(検	査値)		備考															
5 突	5		海岸コンク リートブロック	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基	(層積)ブロック 規格26t未満	±300	/ □	()	()	()	/ □	()	/ <u></u>																
突堤本体工				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。延長は、セン ターラインで行う。	₩ L L	準高	(層積)ブロック 規格26t以上	±500	/ 	()	()	()	/ □	()	/ <u></u>																
Ï							(乱 積)	±ブロックの高さの 1/2	\	/	/ [/		/	\ \ \																
						天	ミ端 幅 w	ーブロックの高さの 1/2	\	()	/ _()	/	\ \ \	/	\ \ \																
						天	·端延長L	ーブロックの高さの 1/2	/ 0	()	/ _()	\	/ [\	\																
	9			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工	•	基	準 高 ▽	±50	/ 0	()	()	()	/ 0	()	/ [
				箇所につき2箇所。	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		H	H	H				H	H	<u> </u>	Л	厚 さ t	-50	/ [()	()	()	/ □	()	/ □ ()	
					h A	高さh	h<3m	-50	\ \ \	()	()	()	/ □	()	/ □ ()																
						اعرا	h≧3m	-100	/ □	()	()	()	()	()	/ □ ()																
				1施工箇所毎	' t '	延	延 長 L	-200	/ [()	()	()	/ 	()	()																
	10		リートエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基	準 高 ▽	±30	()	()	()	()	()	()	()																
				箇所につき2箇所。	h I	фі	湢 w	-30	/ [()	()	()	/ □	()	/ □ ()																
						青	高 さ h	-30	/ [()	()	()	/ □	()	/ □ ()																
						延	正 長L	-200	\	()	()	()	\	()	<u> </u>																

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川海岸編:突堤人工岬】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

_+	大海川海岸柵・天堤八工岬 加工返中での山木が印力が発行値を両たしているが確認する。 「立法確認 「「」」」 「「」」 「」」 「「」 「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」 「「」」 「「」 「「」」 「「」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」」 「「」								
節		工種 番	測定基準	- 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
5 1 突	1 1	(ケーソンエ製	各室中央部1箇所	w	が ラス 高ト マ の	±100			
突堤本体		作)			□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	±50			
工			底版完成時、各壁1箇所	h,	壁 厚 t ₁	±10			
			各層完成時に中央部及び底版と 天端は両端	t ₂ t ₂	幅 w	+30, -10			
			完成時、四隅	t ₁	高 さ h ₁	+30, -10			
			各層完成時に中央部及び底版と 天端は両端		長 さし	+30, -10			
			底版完成時、各室中央部1箇所		底版厚さ t ₂	+30, -10			
			底版完成時、四隅	Ĺ	フーチング高さh ₂	+30, -10			
	2	トレインンエングライン (ケーソン工据) 付)	据付完了後、両端2箇所		法線に対する出入	ケーソン重量 2000t未満 ±100			
		137		1 2	1,2	ケーソン重量 2000t以上 ±150			
			据付完了後、天端2箇所		据付目地間隔	ケーソン重量 2000t未満 100以下			
				2'	1', 2'	ケーソン重量 2000t以上 200以下			
	3	ケーソンエ (突堤上部工)	1室につき1箇所(中心)	w	基基隆上	±30			
		場所打コンク リート、			高 水 中	±50			
		デース 海岸コンク リートブロック			厚 さ t	±30			
				i i	幅 w	±30			
					長 さし	±30			

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川海岸編:突堤人工岬】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸》 節	去確認 条 材	70	測定基準	隼・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
	12	1 セルラー (セルラー	E 型枠取外し後全数 E製	,,, ţ t	壁 厚 t	±10		
5 突堤本体工		作)			幅 w	+20, -10		
				h t	高さh	+20, -10		
					長さし	+20, -10		
		2 セルラーユ ルラーエ	(セ 据付後ブロック1個に2箇所(各段 (付) 毎)	1 2 1	法線に対する 出入 1、2	±50		
				2. H	隣接ブロックとの 間隔 1'、2'	50以下		
		3 セルラー (突堤上部	L 1室につき1箇所(中心) エ)	w	基準 陸上	±30		
		場所打コリート、			高 水 中	±50		
		海岸コンリートブロ	ック		厚 さ t	±30		
				T t	幅 w	±30		
				11 11 1	長さし	±30		

一 末 2	+1 <i>4</i> .//
工事名:	对家箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【河川海岸編:突堤人工岬】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸	法確認								144 -44
	条 枝		測定基準	■・測定箇所	】	則定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
6 根 固	2	捨石工	施工延長10mにつき、1測点当た り5点以上測定。		準	形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500		
めエ						クブロック据付面(乱 責)以外の高さ	±300		
			幅は施工延長40m(測点間隔25m の場合は50m)につき1箇所、延 長40m(又は50m)以下のものは1	Jan Tay	法	長ℓ	-100		
			施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。	\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	天	端幅w	-100		
					天	端 延 長 L	-200		
	3	根固めブロッ クエ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工		基準高▽	層積	±300		
			箇所につき2箇所。	Lı	坐 十向 ▼	乱 積	±t/2		
			幅、厚さは40個につき1箇所測定		厚	i さ t	-20		
				w ₂	幅w ₁	層積	-20		
					w2	乱積	-t∕2		
			1施工箇所毎		延長L ₁	層積	-200		
					L ₂	乱 積	-t∕2		
7 消 波	3	消波ブロック エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工	L ₁	基準高▽	層積	±300		
工			箇所につき2箇所。		坐平向 ▼	乱 積	±t/2		
			幅、厚さは40個につき1箇所測定		厚	i ∂t	-20		
					幅	w ₁ , w ₂	-20		
					延	長 L ₁ , L ₂	-200		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

単位:mm

【河川海岸編:海域堤防】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確 条	認 枝番	工 種	測定基準	・測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付	寸·チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3 海ば	3		捨石工	施工延長10mにつき、1測点当た り5点以上測定。			本均し	±50	/		-
· 堤 基						其	異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500			-
礎工					0/3 4	基準高	異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ	±300			-
						∇	被 異形ブロック据付面 (乱積)の高さ	±500			-
					w1.(L1)		均 異形ブロック据付面 (乱積)以外の高さ	±300			_
				幅は施工延長40m(測点間隔25 mの場合は50m)につき1箇所、	<u> </u>		法長ℓ	-100	/		-
				延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。			天 端 幅 w ₁	-100	/		-
							天端延長L ₁	-200	/		-

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【砂防編:砂防堰堤】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			他工厂中(7日水川川)	プル 兄俗 但 を 両 た し に いる の	2.11年中で 3.400	·	単位:mm	
	法確認 条 材		測定基準	≛・ 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3工場製作工	4	鋼製堰堤仮 設材製作工	図面の寸法表示箇所で測定。		部 部材長((m) 材	±3 ℓ≦10 ±4 ℓ>10		
8 コン	4	コンクリート 堰堤本体工	図面の表示箇所で測定。	L1 W1	基準高▽	±30		
クリ				₩3	天端部 w1, w3 堤 幅 w2	-30		
ー ト リ				$\begin{array}{c c} \nabla & & & \\ \hline \downarrow & & & \\ \hline L_2 & & & \\ \hline \end{array}$	水通しの幅21, 22	±50		
堰 堤 エ					堤 長 L1, L2	-100		
	6	コンクリート 側壁エ	1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準	L WI	基準高▽	±30		
			は、天端幅・天端高で各測点及び ジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延		幅 w1, w2	-30		
			長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		長 さし	-100		
				W2				
	8	水叩工	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。		基準高▽	±30		
			厚さは目地及びその中間点で測定。	- t	幅 w	-100		
					厚 さ t	-30		
				w	延 長 L	-100		

工事名: 対象箇所:		
	工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	田

【砂防編:砂防堰堤】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			】 旭工歩中での山木が印力が現恰値を両にしているが唯能する。 							単12 : mm				
節	確認 条 枝	工種	測定基準	≛・測定箇所		測定項目	規格値		上段	:日付・チェッ	ク欄、下段∶测	則定表値(検査値)		備考
9 鋼	5 1	鋼製堰堤本	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合 は、堤高、幅、袖高は+の規格値			堤高▽	±50	()	()	()	()	() () ()
製 堰 堤		型 <i>)</i>	は、堤局、幅、佃局は十の規格値は適用しない。		水通	長 さん1, ん2	±100	()	/ <u></u>	()	()	() () ()
Ĩ				$\begin{array}{c c} & & & & & & & & & & & & & & & & & & &$	部	幅 w1, w3	±50	/ [/ _()	()	/)
				H ₁		下流側倒れ Δ	±0.02H1	()	()	()	/ <u> </u> ())
				\downarrow_{W} \downarrow_{Δ}	袖	袖 高 ▽	±50	()	()	()	())
					部	幅 w2	±50	()	()	()	()	() ()
			(111.4)			下流側倒れ Δ	±0.02H2	()	()	()	())
	5 2	鋼製堰堤本 体工(透過型)	(備考) 格:格子型鋼製砂防ダム A:鋼製スリットダム A型	L		堤長L 格	±50	()	()	()	())
		= /	B:鋼製スリットダム B型 L:鋼製スリットダム L型	ol H	堤長Q 格·B·		±10	()	()	()	())
				図 a 格子形 銅製スリット		堤幅W 格	±30	()	()	()	())
				格子形 鋼製スリット 鋼製砂防ダム ダムA型	埙	i幅w 格·B·L	±10	()	()	()	()	() ()
				H		堤幅w A	±5	()	()	()	()	() ()
				Z C Z Z	Ē	高さH 格·B·L	±10	()	()	()	())
				鋼製スリット 鋼製 L型 ダムB型 スリットダム		高さH A	±5	()	()	()	()	() ()
	6	鋼製側壁工	1. 図面に表示してある箇所で測定。 2. ダブルウォール構造の場合			堤 高 ▽	±50	()	()	()	())
			は、堤高、幅、袖高は十の規格値は適用しない。	L W1		長さし	±100	/ [()	()	()	() () ()
				\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		幅 w1, w2	±50	()	()	()	()	() () ()
				$\begin{array}{c c} & \downarrow & \downarrow \\ & \downarrow & \downarrow \\ & & \downarrow \\ & & \downarrow \\ & & & \end{array}$	-	下流側倒れ △	±0.02H	()	()	()	()	() () ()
					高さ	h<3m	-50	()	()	()	()	() () ()
					h	h≧3m	-100	()	()	()	())

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【砂防編:流路】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

節	法確認 条 枝番	工種	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
5 床	8	魚道工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40 (アは50) NT の t のは1 推工	基 準 高 ▽	±30		
めて			m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。なお、製品使 用の場合は、製品寸法については	· 情 w	-30		
			規格証明書等による。	h ₂ 高さ h1, h2	-30		
				厚さ t1, t2	-20		
				延 長 L	-200		

工事名:	対象箇所:
— 	7] 外回771:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「小吐絙、公西対策」 佐工冷山での出来形部分が坦牧値を送れているか変勢する

【砂	【砂防編:斜面対策】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。								単位:mm
	寸法確 【条		工種	測定基準	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
6 山			山腹明暗渠 工	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40		基 準 高 ▽	±30		
山腹水路工				m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。(なお製品使 用の場合は、製品寸法は、規格証	t ₁ w t ₂	厚さ t1, t2	-20		
路工				明書等による)	h_1 h_2	幅 w	-30		
					//#// // h3	幅 w1, w2	-50		
						高さ h1, h2	-30		
					$\begin{array}{c c} & W_2 \\ \hline & W_1 \end{array}$	深 さ h3	-30		
						延 長 L	-200		
フ 地 エ	4		集排水ボーリ ングエ	全数	d s	削孔深さℓ	設計値以上		
下水排除					y θ	配置誤差d	100		
除 工						せん孔方向 $ heta$	±2.5度		
					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$				
	5		集水井工	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測 定。		基準高▽	±50		
				<i>C</i> •	y T	偏 心 量 d	150		
					x	長 さし	-100		
					$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	巻立て幅w	-50		
					~ V2 · y	巻立て厚さ t	-30		
			^ <i>÷</i>						
9 抑 止 杭	6		合成杭工	全数測定。		基準高▽	±50		
杭工						偏心量d	D/4以内 かつ100以内		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【ダム編:コンクリートダム】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	グリートグ	ダム】 施工途中での出来?	杉部分が規格値を両にし	しいるか唯認	<u>ඉ තිං</u>		単位:mm
寸法確認	工種	 測定基準・	測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 コンム	ンクリートダエ	2. 上記以外の測定箇所は、下記	天端幅	天端高▽	±20		
		を標準とする。 ①天端高(越流部堤頂高を含む) は、各ジョイントについて測定。		天 端 幅	±20		
ンクリ		②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。	堤幅	ジョイント間隔	±30		
		(注)堤幅、リフト高の測定は、上 下流面型枠と水平打継目の接触 部とする。(堤幅は、中心線又は、	リフ幕	リフト高	±50		
-		基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5リ	堤幅 堤長	堤幅	-30, +50		
		フトごと上流端、下流端を対象に 測定。	J J J J J J	堤長	-100		
		④堤長は、天端中心線延長を測定。3.					
		①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職	ジョイント間隔				
		員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦 性などの測定方法は監督職員の	J : ジョイント				
		指示による。					
<u> </u>	エ	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記	、 長さ	天端高▽	±20		
		を標準とする。 ①天端高(敷高)、ジョイント間は 各ジョイント、各測点の交点部を	V	ジョイント間隔	±30		
		測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測		幅	±40		
		定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督		長 さ	-100, +60		
		職員の指示による。	·····\-				
			1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
			↓				

工事名:	対象箇所:

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

「ガナ紀・コンクリー」がより、佐工冷中での出来形部分が担格値を送れているが確認する

【ダム編:コンクリートダム】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。							単位:mm
寸法社 節 条		測定基準	•測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 ダ	コンクリートダ ムエ	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注)堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。	堤幅	天端高▽	±20		
ムコン	(副ダム)			ジョイント間隔	±30		
クリリ				リフト高	±50		
					-30, +50		
工				堤長	±40		
		④ 堤長は、各測点ごとに測定。	提長 測点 測点 測点 測点 測点 測点 1:ジョイント				
4 ダ	コンクリートダ ムエ (導流壁)	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記 を標準とする。	天端幅	天端高▽	±30		
ムコン	(等加至)	①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注)リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。 なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。	厚さ	ジョイント間隔	±20		
クリー			厚さ	リフト高	±50		
			厚さ 【	長 さ 	±100		
				厚	±20		
			(副ダム部) <u>測点</u> <u></u> 測点				
			(水叩部) カ <u>測点</u> リ <u> 測点</u>				
			「 <u>測</u> 点 J <u>測</u> 点 J <u>測</u> 点 J <u>測</u> 点 J				
			(本体部)				
			J : ジョイント				

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【ダム編:フィルダム】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確認	工種	測定基準	≛・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3	5		各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種(タンピ		基準高▽	-0		
盛立工			ングローラ)の場合		外側境界線	-0, +500		
	6	フィルターの 盛立	各測点について5層毎に測定。	G. ! フィルター幅	基準高▽	-0		
					外 側 境 界 線	-0, +1,000		
				ロック幅	盛立幅	-0, +1,000		
				コア幅				
	7		各測点について盛立5m毎に測 定。		基準高▽	- 100		
					外 側 境 界 線	-0, + 2,000		
			1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 1回/1施工箇所		基準高▽	±20		
				. w .	ジョイント間隔	±30		
					厚 さ t	±20		
				リフト高	幅 w	±40		
				ジョイント間隔	リフト高さ	±20		
					長さし	±100		

工事名:	対象箇所:]	主任検査職員

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【ダム編:基礎グラウチング】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法確節 条	፤認 枝番	工種	測定基準・	測定箇所	測定項目	規格値	上段:	:日付・チェッ	ク欄、下段∷	測定表値(検	査値)		備考
3 ボ			ボーリングエ毎 ※配置位置の規定はコンクリート 面で行うカーテングラウトに適用す		深 度 L	設計値以上	() ()	/ ()	()	()	()	()	
リリン			面で打りカーテングラウトに適用する。		配置誤差	100	() ()	/ ()	()	()	/ ()	()	
グーエー													
				□ <u></u>									

工事名:	対象箇所:
------	-------

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:共同溝】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確認	忍	工括		・測定箇所	測定項目		上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
<u>節</u>	条 2				- 広尾凹刀	以(人)	が旧旧		NH つ
現場	2		現場打 躯体 工	両端・施工継手箇所及び図面の 寸法表示箇所で測定。		基準高▽	±30		
打構築						厚 さ t	-20		
築工					twtwtwtwt 	内空幅w	-30		
					h h h h h	内空高h	±30		
						ブロック長 L	-50		
	4		カラ一継手工	図面の寸法表示箇所で測定。	, T	厚 さ t	-20		
					t <u>↓</u>	幅 w	-20		
						長 さし	-20		
					k w →				
	5	1	防水工 (防水)	両端・施工継手箇所の底版・側 壁・頂版で測定。		幅 w	設計値以上		
					k → V				
			防水工(防水 保護工)	両端・施工継手箇所の「四隅」で 測定。	t]	厚 さ t	設計値以上		
	_				` 41				
		3	防水工 (防水壁)	図面の寸法表示箇所で測定。		高さh	-20		
					h	幅 w	±50		
					₩	厚 さ t	-20		
7 プ			プレキャスト 躯体エ	施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m)につき1箇所、延長	L				
レキャ				40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。ただし、 基準高の適用は据付後の段階検	 	基 準 高 ▽	±30		
スト				査時のみ適用する。					
構築工				延長:1施工箇所毎		延 長 L	-200		

工事名:	対象箇所:
, <u></u> ,	738.201

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:電線共同溝】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確認 条 枝	工種	測定基準・	測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
5 電 線	2	管路工 (管路部)	接続部(地上機器部)間毎に1箇 所。	E t	埋設深 t	O~+50		
井同清			接続部(地上機器部)間毎に全数。 【管路センターで測定】	;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;;	延長 L	-200		
I				接被部 接被部 (地上機器部)				
	3	プレキャスト ボックスエ	接続部(地上機器部)間毎に1箇 所。		基 準 高 ▽	±30		
		(特殊部)						
6 付 世	2	ハンドホール エ	1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		基準高▽	±30		
帯設備				t 3	※厚さ t1~t5	-20		
エ				t ₄	※幅 w1, w2	-30		
				h ₁ h ₂ t ₅	※高さ h1, h2	-30		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

単位:mm

【道路編:道路維持】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	寸法確認		- 14	'U + 26		测点存口	規格値		/## - -
飦	条			測定基準・測定箇所		測定項目	平均の測定値 (X10) 平均の測定値 (X10)	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
4 舗 装 工	5		バーレイエ	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。	Ę. I	厚 さ t	-9		
工	:) する。 測定点は車道中心線、車道端及 びその中心とする。	t +	幅 w	-25		
				幅は、延長80m毎に1箇所の割と し、延長40m未満の場合は、2箇		延 長 L	-100		
				所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	^{現舗装 w} 維持工事においては、平坦性の項目				
					を省略することが出来る。	平 坦 性	3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下		
4 舗 装 工	7		路上再生工	幅は延長80m毎に1箇所の割で測 定。厚さは、各車線200m毎に左 右両端及び中央の3点を掘り起こ	Ę.	厚さ t	-30		
工	:			して測定。 t +	B	路 幅 w 工	-50		
					延長 L	-100			
					現舗装 w				

施工プロセス検査(出来形) チェックシート (期間: 年 月 日~ 年 月 日)

		<u> </u>
工事名:	対象箇所:	

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:道路修繕】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法	確認	工種	測定	E基準	测宁符配	测学话口	坦拉店	L. D. L.	備考
節	入 技番	上性	鋼げた等	トラス・アーチ等	測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	1佣 右
3工場製作工	4	桁補強材製 作工	主げた・主構 床組など	各支点及び各支間中央付近を測定。 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定を割ります。	h	フランジ 幅w(m) 腹 板 高 h(m)	$\pm 2 \cdots w \le 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \le 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \le 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$		
			主げた	各支点及び各支 間中央付近を測 定。	δ	フランジの直角度 δ (mm)	w/200		
			_	主要部材全数を 測定。&:部材長 (mm)	δ δ	圧縮材の曲がり δ(mm)	2/1,000		

_ + 5	
工事名:	対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:道路改良】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			四以及』	施工述中での出来形部分が規格値を満たしている	リカル推覧する。			単位:mm
	寸法確 条		工種	測定基準・測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
3工場製作工	2	1	遮音壁支柱 製作工	図面の寸法表示箇所で測定。	部材 部材長l(m)	±3···ℓ≤10 ±4···ℓ>10		
9 カ	6		場所打函渠 工	両端、施工継手及び図面の寸法 表示箇所で測定。	基準高▽	±30		
ルバー				t 3 *	- 厚さ t1~t4	-20		
T F						-30		
					高 さ h	±30		
					正<20m 延長	-50		
					L≧20m	-100		
1	4		落石防止網	1施工箇所毎				
1 1 落			洛伯彻亚帕	加工固別時	幅 w	-200		
落石雪宝					延 長 L	-200		
害防止工								
	5		落石防止柵	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1	高さ h	±30		
				施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎	延 長 L	-200		

工事名:	対象箇所:
------	-------

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印	
品質検査員名	印	

【道路編:道路改良】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			. 岭以艮】	施工途中での出来形部分が規格値を満たしているが確認する。					単位:mm	
節	∱法確 条	認 枝番	工種		≛·測定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
1 1 落石雪害防	6			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。	h L		高 さh	±30		
害防				1施工箇所毎			延 長 L	-200		
止工				基礎1基毎	h À	基礎	幅 w1, w2	-30		
					W_1 W_2	圣诞	高 さ h	-30		
	7			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。	4/1/		高 さh	±30		
				1施工箇所毎			延 長 L	-200		
				基礎1基毎	h (12.5)	基礎	幅 w1, w2	-30		
					W_1 W_2	基 促	高さh	-30		
				全数		ア 長ン	打込みし	-10%		
						l カ 	埋込みℓ	-5%		
1 2 ······	4		エ	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1	* <u>*</u>		幅 w	-30		
2 遮音壁工				施工箇所につき2箇所。	h		高 さ h	-30		
ᅟ				1施工箇所毎			延 長 L	-200		
	5		遮音壁本体 工	施工延長5スパンにつき1箇所			間隔 w1, w2	±15		
						支柱	ずれa	10		
					h l	IXIT	ねじれ b-c	5		
					\mathbf{w}_2		倒れd	h×0.5%		
				. 1	— <u>——————</u> a b ↑ ↑		高 さ h	+30, -20		
				1施工箇所毎	ь Г ° Т		延 長L	-200		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:舗装】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。 単位∷ 単位∷									単位:mm				
	寸法						規模	恪値					
飦	5 条	枝番	工種	測定基準	集•測定箇所	測定項目	個々の測定値(X)	10個の測定値の平均 (X10)	上段:日付・チュ	ェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
4 舗 装	ħ l		步道路盤工 取合舗装路 盤工	基準高は片側延長40m毎に1箇 所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1箇所	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が	基準高▽	±50	_			/		
I I	₹ - -			掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1箇所測	2,000m以上とする。	t< 厚 15cm	-30	-10			/		
				※再提報の占が測字する	スファルト混合物の総使用量が500t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	t≧ 15cm	-45	-15					
					個以上の割合で規格値を満足しなけ	満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値	幅	-100	_			/	
					の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。								
					コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合 は、他の方法によることが出来る。								
			取合舗装工	幅は、片側延長80m毎に1箇所の 割で測定。厚さは、片側延長200m		厚き	-9	-3					
			路用舗装工 表層工	毎に1箇所コアーを採取して測定。		幅	-25	_			/		

工事名:	対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:舗装】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸	法確 条	汉 工 任	測定基準		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値) 備考	
5排水構造物		排水性舗用路肩排工	装 施工延長40m(測点間隔25mの場 水 合は50m)につき1箇所、延長40 m(又は50m)以下のものは1施工 箇所につき2箇所。		基 準 高 ▽	±30		
物工			1箇所/1施工箇所		延 長 L	-200		
7 踏	4	踏掛版エ (コンクリー エ)			基準高	±20		
踏掛版工		(ラバー シュー)	1箇所/1踏掛版		各部の厚さ	±20		
		(アンカー: ト)	ボル 1箇所/1踏掛版		各部の長さ	±30		
			全数		各部の長さ	±20		
					厚さ	_		
			全数		中心のずれ	±20		
			全数		アンカー長	±20		
9 標 識 工	4	1 大型標詢 (標識基礎		W ₁	幅 w1, w2	-30		
工				W ₂ O	高さり	-30		
				w ₂				

工事名:	対象箇所:

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:舗装】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

							単位:mm			
節	去確 条	枝番	工種		≟・ 測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表	値(検査値)	備考
9標識工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	1箇所/1基	н	設置高さ H	設計値以上			
	5		エ	接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数		埋設深t	0~+50			
道路付属施設工				JAMARIA A C.L.M	接続部 (地上機器部) (地上機器部)	延 長 L	-200			
			ケーブル配管 エ (ハンドホー ル)	1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合	$\begin{array}{c c} t_3 \\ \hline \\ w_1 \\ \hline \\ t_4 \\ \hline \\ \hline \\ h_1 \\ \hline \\ \hline \\ h_2 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ t_5 \\ \hline \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ $	基準高▽ ※厚さt1~t5 ※幅 w1, w2 ※高さh1, h2	±30 -20 -30 -30			
<u>-</u>	6		照明工 (照明柱基礎 工)	1箇所/1施工箇所		幅 w 高 さ h	-30 -30			

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:橋梁下部】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

	法確言 条	工種	測定基準・浪	定箇所		測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値) 備考
3 工場製	3	鋼製橋脚製 作工	各脚柱、ベースプレートを測定。	脚柱 δ N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	部	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ (mm)	w/500	
作工			全数を測定。	0 00 8	材	ベースプレートの 孔の位置	±2	
			全数を測定。	å 8		ベースプレートの 孔の径d	0~5	
			両端部及び片持ばり部を測定。			柱の中心間隔、 対角長L(m)	±5···L≦10m ±10···10 <l≦20m ±(10+(L-20)/10)··· 20m<l< td=""><td></td></l<></l≦20m 	
			各主構の各格点を測定。	δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ δ	仮組立	はりのキャン バー及び柱の曲 がり δ(mm)	L/1,000	
			各柱及び片持ばり部を測定。	δ H	- 時 -	柱の鉛直度 δ(mm)	10···H≦10	
			H:高さ(m)	→ → ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓			H···H>10	

	δ	
工事名:	*	対象箇所:
	WHÎ II TÊ	

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

		施工途中での出来形部分が規格値を満たしているが確認する。						
寸法確認 節 ↓ 条 ↓ 枝		測定基準・測定	主箇州 面図 正面図	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
6 8 橋	橋台躯体工	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	W ₂ W ₁ W ₂ W ₁	基準高▽	±20			
台工工		箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。		厚 さ t	-20			
			t hi	天 端 幅 w1 (橋軸方向)	-10			
			ţ.	天 端 幅 w2 (橋軸方向)	-10			
			W3 W3	敷 幅 w3 (橋軸方向)	-50			
			$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	高 さ h1	-50			
			$egin{array}{c cccc} h_1 & & & & \\ h_2 & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & $	胸壁の高さ h2	-30			
			+ + +	天 端 長 121	-50			
			W ₃ W ₃	敷 長 02	-50			
			胸壁問距離 Q 支間長	胸壁間距離 2	±30			
				支間長及び中心 線の変位	±50			
				支 計画高 承 の部	+10~-20			
				の部 箱 ア 抜ン 平面位置 き カ 規	±20			
				ペパー 格ボ アンカーボルト孔の ル 鉛直度 ト	1/50以下			

工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:橋梁下部】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			同来下印】 旭工速中での山木が印力が発情値を何だしているが唯認する。 							
	法確定		工種	測定基準	測定基準・測定箇所		規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考	
7 R	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。		基準高▽	±20			
C 橋				箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。	$\bigvee_{}^{\mathbf{W}_{1}}$	厚 さ t	-20			
脚工					$\int \left\langle \begin{array}{c} h \\ \end{array} \right\rangle$	天 端 幅 w1 (橋軸方向)	-20			
						敷 幅 w2 (橋軸方向)	-50			
					$\mathbf{w}_{2}^{\mathbf{W}_{1}}$	高 さ h	-50			
						天 端 長 21	-50			
					h	敷 長 02	-50			
						橋脚中心間距離 l	±30			
					\mathbf{W}_{2}	支間 長 及 び中心 線の変位	±50			
					橋脚中心問距離 2	支 の 承 い 許画高 の 節部	+10~-20			
						支 承 新 部 ボ 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	±20			
						格 ボ 値 ル アンカーホ*ルト孔の ト 鉛直度	1/50以下			

T 事名·	社各 姓武。
上事有∶	对家崮所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:橋梁下部】施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

節	法確認 条		工種	測定基準・	測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
5 R	9	2	(ラーメン式)	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	W 1	基準高▽	±20		
C 橋				箱抜き形状の詳細については「道 路橋支承便覧」による。		厚 さ t	-20		
脚工					h t	天 端 幅 w1	-20		
					$\langle w_2 \rangle$	敷 幅 w2	-20		
					t	高 さ h	-50		
					$h \downarrow t \downarrow t$	長さり	-20		
					$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	橋脚中心間距離 ℓ	±30		
					橋脚中心間距離↓	支間長及び中心 線の変位	±50		
					支間長	支	+10~-20		
						支 承 の部 アンカ 平面位置 規ト	±20		
						格 ボ 値 ル アンカーホ・ルト孔の ト 鉛直度	1/50以下		

施工プロセス検査(出来形) チェックシート (期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:橋梁下部】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

寸法码	隺認	工 括		」が発信値を測にしている。			上段,日付。チェック博 下界、測宁主体/校本体)	一
節条		1		- 測定箇所	測定項目	况恰 但	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	佣方
8 9	1	グエ(I型•T	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	Fi F-1	基準高▽	±20		
製橋脚工		型)			幅 w (橋軸方向)	-50		
Î				$\downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad$	高 さ h	-50		
				[7]	長さり	-50		
		15 nin						
	2	橋脚ノーナン グエ(門型)	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	🗓 💆	基準高▽	±20		
				h 🕽	幅 w1, w2	-50		
					高さh	-50		
				W_2 W_2				
10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	∇	基準高▽	±20		
					橋脚中心間距離 0	±30		
					支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		
				[]				
	2	橋脚架設工 (門型)	橋軸方向の断面寸法は中央及び 両端部、その他は寸法表示箇所。	Π	基準高▽	±20		
				Ц	橋脚中心間距離 ℓ	±30		
					支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		
11		現場継手工	主桁、主構の全継手数の1/2を 測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		現場継手部のすき間 δ_1 , δ_2 (mm)	5 ※±5		

工事名:	対象箇所:
------	-------

(期間: 年 月 日~ 年 月 日)

主任検査職員名	印	
品質検査員名	印	

【道路編:鋼橋上部】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		TIP) — 417 /		が現恰値を満たしているが	中田口心	7 00									単位:mm
節	法確認	工種	測定基準	・ 測定箇所		測定項目	規格値		上段	:日付・チェッ	ク欄、下段:	測定表値(検	査値)		備考
3工場製作工	9	橋梁用高欄 製作工	図面の寸法表示箇所で測定。		部材	部材長l(m)	± 3 ···ℓ≤10 ± 4 ···ℓ>10	()	()	()	()		()	()	
5 共 通 的	1	地覆工	1径間当たり両端と中央部の3箇 所測定。		地	覆の幅 w ₁	-10~+20	/ □ ()	/ □	/ D	()	()	()	()	
的工				W1 W2	地	遠覆の高さ h	-10 ~ +20	()	()	()	()	()	()	()	
種				h	有	効幅員 w ₂	0~+30	()	()	()	()	()	()	()	
	8	落橋防止装置工	全数測定		アンス 孔長	フーボルト孔の削	設計値以上	()	()	()	()	()	()	()	
			全数測定 D:アンカーボルト径 (mm)		アンカ	コーボルト定着長	-20以内 かつ -1D 以内	()	()	()	()	()	()	()	
_	6 7	橋梁用防護 柵工 橋梁用高欄 工	1径間当たり両端と中央部の3箇 所測定。	w h		幅 w 高さ h	-5~+10 -20~+30		/ [() / [/ [() / [()	
	8	検査路工	1ブロックを抽出して測定。		ī	高さ	±3 ±4	/	/				()		
6プレビーム桁橋エ	2	プレビーム桁 製作工(現 場)	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ②:スパン長	h	桁	幅 w 高 さ h 元 長 Q スパン長	±5 10 -5 0<15・・・±10 ℓ≥15・・・± (ℓ- 5) かつ-30mm以内								
				w	横7	方向最大タワミ	0.80	/ [/ [/ 0	/ 0	/ [/ [/ [

施工プロセス検査(出来形) チェックシート (期間: 年 月 日~ 年 月 日)

│	象箇所:
---	------

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編・トンネル(NATM)】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

		ンネル(NA	ATM)】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。						
	法確	工 種	測定基準	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値) 備考			
4支保工	3	吹付工	施工延長40m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔 を測定。 注)良好な岩盤とは、道路トンネル 技術基準(構造編)にいう地盤等 級A又はBに該当する地盤とす る。	(2) (1) G (3) 覆エコンクリート 吹付コンクリート (5) S.L. (6) (7)	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。 ただし、良好な岩盤で 施工端部、突出部等 の特殊な箇所は設計 吹付け厚の1/3以上 を確保するものとす る。			
	4	ロックボルトエ	施工延長40m毎に断面全本数検 測		位置間隔	_			
					角 度	_			
					削 孔 深 さ	_			
					孔 径	_			
					突出量	プレート下面から 10cm以内			
5 覆	3	覆エコンク リートエ	(1) 基準高、幅、高さは、施工40m につき1箇所。		基準高(拱頂)	±50			
工			(2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間		幅 w(全幅)	-50			
			を1打設長の終点を図に示す各点 で測定。中間部はコンクリート打設 口で測定。		高さh(内法)	-50			
			(ロ) コンクリート打設後、覆エコン クリートについて1打設長の端面	t 🗼	厚さ t	設計値以上			
			(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに1箇所、(2)~(3)は	h (2) 覆エコンクリート	延 長 L	_			
			100mに1箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、右記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な実出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で認されかつ別途構造的になって、型枠の据付け時には安定が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。	(6) (5) s. L (7) w					

_ + 5	
工事名:	対象箇所:

(期間: 年月日~年月日)

主任検査職員名	印
品質検査員名	印

【道路編:トンネル(NATM)】 施工途中での出来形部分が規格値を満たしているか確認する。

			ノヤル(NA	IM)』 施工途中での出来形部分が規格値を満た		単位:mm		
	法確定	^認 枝番	工 種	測定基準·測定箇所	測定項目	規格値	上段:日付・チェック欄、下段:測定表値(検査値)	備考
5 覆 工	5			施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工	幅 w	-50		
				箇所につき2箇所。	厚 さ t	-30		
	4		<i>^</i>					
6イン	4		インハート本体工	(1) 幅は、施工40mにつき1箇所。(2) 厚さ(イ) コンクリート打設前の巻立空間	幅 w(全幅)	-50		
バー				を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。	厚さ t	設計値以上		
トエ				(ロ) コンクリート打設後、インバート コンクリートについて1打設長の端 面(施工継手の位置)において、図	延 長 L	_		
				に示す各点の巻厚測定を行う。	-			
			I+88 //	k w →				
8 坑 門	4		坑門本体工	図面の主要寸法表示箇所で測 定。	基準高▽	±50		
工				$ \begin{array}{c c} L & \stackrel{W_1}{\longrightarrow} \stackrel{\longleftarrow}{\longrightarrow} \\ \hline \end{array} $	幅 w1, w2	-30		
				h T	高 h<3m さ	-50		
					h h≧3m	-100		
				k→1 W2	延長L	-200		
	5		明り巻工	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延 長40mにつき1箇所を測定。	基準高(拱頂)	±50		
				なお、厚さについては図に示す各 点①~⑩において、厚さの測定を 行う。	幅 w(全幅)	-50		
				② <u> </u>	高さh(内法)	-50		
				(アーチ部) (60%)(60%)	厚 さ t	-20		
				(側壁部) (側壁部) (延 長 L	_		
				(インバート部)				
				8 0 0				